

ごあいさつ	2
1 島根大学医学部地域医療支援学講座メンバー紹介	4
2 講 座 紹 介	5
3 1 年 間 の あ ゆ み	7
1 学生教育	7
2 学生支援等	17
3 地域医療交流サロンの取組み	26
4 総合診療専門医育成ネットワーク	29
5 ワークライフバランス支援	39
6 地域医療支援等	44
7 地域医療支援コーディネータ等への支援	47
8 ホームページ・広報紙等による情報発信	48
4 業績（講演会・シンポジウム・学会等）	50
5 写真で見る 1 年間	52
資 料 編	65
終 わ り に	99



ごあいさつ

島根大学医学部長 山口 修平

島根大学の立地する島根県は、全国有数の高齢化県であり医療資源の偏在等の問題を抱えています。そのような中において医学部では、地域医療を志向した高度専門医療人の養成、地域医療人の生涯教育体制の確立、地域医療支援者の養成、地域に根ざした研究を推進できる研究者の養成など、地域医療充実のためのミッションを掲げています。

地域医療支援学講座は、地域医療を支える人材の育成を目指して、島根県、県内自治体、医療機関そして島根大学が連携するかたちで、平成22年度に寄附講座として開設されました。本講座は、地域医療教育学講座、地域医療政策学講座、総合医療学講座、さらに卒後臨床研修センターなどの学内組織と連携し、地域医療の課題解決に向けて精力的に活動を行ってきました。この度、第1期4年間のあと平成26年からスタートした第2期2年間の事業が終了し、報告書が完成いたしました。

地域医療支援学講座は、本報告書にありますように、地域医療に関連した学生講義、地域学生の個別指導、地域医療実習の企画・実施、地域医療セミナーの開催、ワークライフバランスを含めた卒業生に対するキャリア形成の支援など、数多くの人材育成の取り組みを継続的に行っています。地域医療を支えるには総合医の育成が重要であり、文部科学省から選定を受けた未来医療研究人材養成拠点形成事業と連携して大学院コースも設置し、地域における指導者の養成にも力を入れています。これらの成果は島根県で初期研修を行う医師の増加として徐々に現れてきています。本講座は島根県の支援のもと来年度以降も継続することが決定しており、講座スタッフのさらなる充実が図られます。地域医療の再生に向けて、地域医療支援学講座のスタッフの皆様のご今後の一層の活躍を期待すると共に、関係する皆様のご支援を心よりお願い申し上げます。



ご 挨拶

島根大学医学部地域医療支援学講座 教授 谷口 栄作

地域医療支援学講座は島根県からの寄附講座として、島根県、県内自治体、医療機関と島根大学が連携し地域医療を支える人材育成対策の中心となるべく平成22年度に設置されました。平成22～25年度に第1期を終了し、26年～27年度の第2期後半として、今年度の事業を行いました。この6年の間に様々な事業を展開し、それぞれの取り組みが学生や地域の関係者にとってより充実したものになるよう、皆さまのご協力をいただき、工夫をしてきました。

今年度は正課として1年次の地域医療関連講義、3年次の講座配属、4年次のキャリア教育、5年次の臨床実習（地域医療・総合医療）、5・6年次の臨床実習（地域医療病院実習）、全学年対象の春季・夏季地域医療実習、フレキシブル実習等に携わりました。また正課外では、基本的に月に1回地域医療セミナー、ランチョンセミナー等を開催し、学生の地域医療理解の促進や自らのキャリアを考える機会を設けました。さらに一般社団法人しまね地域医療支援センターからの委託を受け、総合診療専門医育成やワークライフバランス支援に取り組んできました。

地域枠等学生に対しては、年1回以上の個別面談、学年別集会、地域別集会等を実施し、学生同士、学生と教員、学生と教員と県内の地元関係者の絆を強めています。その中で、今年度初めての取り組みとして、地域枠6年生の呼びかけにより全学年の地域枠・緊急医師確保枠・県内定着枠の学生の交流会を実施しました。学年別交流会はあったものの、全学年で集まる機会はありませんでしたので、学年を超え縦のつながりができたことを学生が喜び、来年度も引き続き開催することになりました。そのような中、島根大学では平成28年度から「地域貢献人材育成入試」が全学部において実施されました。これは国立大学では全国初となる取り組みで、当入試で入学してきた学生は自らの専門と共に地域関連科目を学び、卒業後は地域で活躍し、地域活性化や課題解決に取り組む人材になることが期待されます。今後は医学生だけでなく他学部の地域貢献人材との交流も図り、医学生がより広い視野を持ち、より良い地域医療体制ひいてはより良い地域づくりの一役を担える人材になるための支援をしていきたいと考えています。

最後になりましたが、これらの取り組みを共に行ってきた学内関係者を始め、島根県、市町村、医療機関、医療を守り育てる住民の皆さま、しまね地域医療支援センターの皆様にお礼を申し上げますとともに、今後も引き続きご指導ご鞭撻いただきたくお願い申し上げます。



1

島根大学医学部 地域医療支援学講座メンバー紹介

教 員

- 教 授 谷口 栄作（平成22年4月～）
- 准 教 授 佐野 千晶（平成28年3月～）
- 特任助教 吉岡みち子（平成22年4月～）
- 特任助教 日高美佐恵（平成25年8月～）
- 特任助教 中畑 典子（平成26年10月～）

事務職員

- 事務補佐員 芦田理恵子（平成25年10月～）
- 事務補佐員 岡田知瑛里（平成26年12月～平成27年8月）
- 事務補佐員 高橋 菜穂（平成27年7月～）
- 事務補佐員 吾郷 倫子（平成27年11月～）

2 | 講座紹介



地域医療支援学講座は全国的に医師不足が顕在化し、医療崩壊が叫ばれる中、地域の医師確保、救急医療の確保等、地域医療の課題を解決するために、国の予算により、平成21年度島根県に創設された地域医療再生基金を活用し、平成22年4月に県の寄付講座として島根大学医学部内に設置された。当講座は、地域医療教育学講座、地域医療政策学講座、総合医療学講座、卒後臨床研修センター、各診療科等の学内組織、そして島根県や市町村、しまね地域医療支援センター、地域医療機関等学外の関係機関と連携を図りながら、「学生や医師が、地域医療に興味を持ち、地域医療へのモチベーションを膨らませるとともに、医師としてのキャリアアップと県内で安心して働ける環境づくりを支援する」ことを目的としている。そしてその実践の中で、それぞれの地域医療のシステムのあるべき姿、またそこに至るプロセス等について研究したいと考えている。そのために次の取組みを行っている。

1) 医学科学生教育

【正課】

- ① 1年生早期体験実習（1W）【必修】
- ② 1年生地域医療講義「医学概論」（8コマ）【必修】
- ③ 3年生講座配属 5人×（2コマ×3日）×4W×2クール
- ④ 4年生キャリア教育（男女共同参画講義）（3コマ）【必修】
- ⑤ 5年生臨床実習（地域医療・総合医療）隔週1W【必修】
- ⑥ 5・6年生臨床実習（地域医療病院実習）2W【必修】
- ⑦ 夏季・春季地域医療実習【自由】
- ⑧ フレキシブル実習【自由】

【正課外の活動】

- ① 地域医療セミナー（10回程度/年）
- ② ランチョンセミナー（10回程度/年）
- ③ ビデオセミナー（毎週）
- ④ 地域医療ワークショップ及び総合診療ワークショップの開催（2回/年）
- ⑤ 学生の面談
- ⑥ 学生と地域との交流支援
- ⑦ 地域医療交流サロンの取組み等

2) 医師のキャリア支援活動

- ① 地域枠医師、奨学金貸与医師、その他希望者を対象にしたキャリア支援
- ② 総合診療医育成支援
- ③ ワークライフバランス支援

3) 地域医療支援

- ① 地域医療システムマネジメント支援
- ② 地域医療コーディネータ支援



4) 今年度の新たな取り組み

- ①地域枠等全学年集会（9月25日）（P.27参照）
- ②ワールドカフェ形式による春季・夏季地域医療実習報告会（8月21日、3月11日）（P.14参照）
- ③医師生活密着型実習（通年）（P.40参照）
- ④自治医大学生及び島根大学地域枠有志学生意見交換会（8月21日）（P.29参照）
- ⑤総合診療医後期研修プログラム参加医師の合同勉強会及び交流会（11月14日）（P.34参照）
- ⑥総合診療医育成のためのテレビ会議システム活用研修試行事業（7月）（P.33参照）
- ⑦若手総合診療医FD：医学教育（6月27日、9月26日、1月9日）（P.34参照）
- ⑧県内医療機関の勤務環境調査（9月）（P.41参照）
- ⑨しまね公衆衛生の会「Ship」（10月17日、12月12日、2月6日）（P.47参照）

3 | 1 年間のあゆみ



1 学生教育

1) 早期体験実習

平成25年度から1年次の9月に早期体験実習を島根大学附属病院で行っている。早い学年から医療の現場に触れると同時に、5年生や6年生が臨床実習を行っている姿を見ることで教養や基礎医学へのモチベーションを上げることを目的にしている。当講座では実習のグループワークを担当している。

①事前学習

医の倫理、マナー・コミュニケーション、医療安全・感染対策、個人情報保護
医療情報検索

②医療体験実習

附属病院各診療科での実習、BLS

③報告会

実習グループによるグループワークと発表会



早期体験実習

2) 地域医療関連講義

(1) 医学概論Ⅰ（地域医療分野）

1年次前期に県内のユニークな取り組みをしている医師から3コマ、地域医療の実践について紹介していただき、4コマ目でグループワークとその結果を報告と討論を行っている。

平成27年4月16日 「地域医療の取り組みから」

池田診療所 長坂行博 氏

平成27年4月23日 「医療崩壊の背景は何か。地域医療の再生に何が必要か」

公立邑智病院 石原 晋 氏

平成27年4月30日 「隠岐島前における離島医療について」

隠岐島前病院 白石吉彦 氏

平成27年5月7日 グループワーク

「地域医療の魅力と課題」、

「課題を解決するためにはどうすればいいか、又は魅力をさらに伸ばすためにどうすればいいか」

島根大学医学部地域医療教育学講座

熊倉俊一 氏

島根大学医学部地域医療支援学講座

谷口栄作





3 1年間のあゆみ

(2) 医学概論Ⅱ（地域医療分野）

1年次後期に大学教員が2コマ地域医療に関する講義を行い、3コマ目でグループワークとその結果報告と討論を行った。

平成27年10月13日 「日本の地域医療」

島根大学医学部地域医療支援学講座 谷口栄作

平成27年10月20日 「諸外国の地域医療」

島根大学医学部地域医療教育学講座 熊倉俊一 氏

平成28年1月12日 グループワーク「医師として、医療を担うために何を学ぶか」

「どんな医師になりたいか」「そのために何をするか」

島根大学医学部地域医療教育学講座 熊倉俊一 氏

島根大学医学部地域医療支援学講座 谷口栄作



3) 講座配属

島根大学医学部では3年次に、医学生自ら希望する講座で研究参加や臨床見学等を行うことができる講座配属を実施している。当講座は今年度5名の医学生を受入れ、出雲地域の病病連携、病診連携、医療看護連携、医療福祉連携等を知り、病院前後の救急医療連携や感染症発生時対応について学んだりして、それらをより良く推進する医療政策についての理解を深める学習を提供した。

【日 時】平成27年（前半）9月28日～10月30日、（後半）11月2日～11月28日

【参加者】島根大学医学部医学科3年生 計5名（前半2名・後半3名）

【内 容】

(1) 地域医療連携・感染症管理

- ① 医療福祉連携マネジメントプログラム
- ② 医療政策・感染症管理プログラム

(2) 救急医療連携

- ① 救命救急教育
- ② 病院前後の救急医療連携についての学習

【指導方針】

- ・ 出雲の地域医療の現状を通じて、日本の地域医療の現状を学ぶ。
- ・ 出雲地域の病病連携、病診連携、医療看護連携、医療福祉連携等を講義、自習、実習を通じて学び、



さらにそれらをよりよく推進する医療政策について理解を深める。

- ・感染症発生時の対応について学ぶ。
- ・医学教育、地域医療教育に関する調査や分析に参加する。
- ・病院前後の救急医療連携について学ぶ。BLS等の実習を行うとともに、その訓練にも参加する。

【医療実習協力機関】

出雲保健所、出雲市民リハビリテーション病院、在宅診療所いずも、深田医院、訪問看護ステーションいずも、出雲消防本部、島根大学医学部附属病院ほっとサロン、島根大学医学部附属病院地域医療連携センター（順不同）



4) キャリア教育（男女共同参画講義）

4年次を対象にしたキャリア教育を島根県医師会と共に主催している。

【日 時】平成28年3月3日（木） 10：15～16：00

【場 所】島根大学医学部臨床大講堂

【参加者】医学部4年生 101名

【内 容】

（1）キャリアについて考える

- ・グループワーク「妻の海外留学について」
- ・まとめの講義

秋田大学医学部総合地域医療推進学講座 准教授 蓮沼直子 氏

（2）キャリアモデルの紹介

島根大学医学部腫瘍血液内科学講座 医長 大西千恵 氏

島根大学医学部小児科学講座 准教授 福田誠司 氏

島根大学医学部発生生物学講座 助教 小川典子 氏





3 1年間のあゆみ

(3) 島根大学男女共同参画の取り組み

島根大学学長特別補佐（男女共同参画担当）

河野美江 氏



(4) 島根県「えんネット」の取り組み

島根大学医学部地域医療支援学講座 日高美佐恵

(5) 講演会

「日本医師会の取り組み～私達のやってきたこと～」

日本医師会女性医師支援センター副センター長 保坂シゲリ 氏



5) 臨床実習

平成24年度より、地域医療教育学講座、総合医療学講座、地域医療政策学講座、卒後臨床研修センターと当講座の教員により、プライマリケアに必要な能力を習得するために5年次の臨床実習の一部を担当している。

当講座では最初のオリエンテーションに続いて、地域医療連携演習として、病診連携・病病連携、医療介護連携、医療と関係施設との連携について、ケースメソッドによる教育を行っている。1週間の総括についても、分担して担当している。



■平成27年度 典型的スケジュール

午前			午後			
	集合	担当教員		集合	担当教員	
月	9:00	オリエンテーション 地域医療演習 【みらい棟 2F 地域医療交流サロン】		13:30	臨床推論 【みらい棟 2F 地域医療交流サロン】	鬼形 (卒後臨床研修 センター)
火	8:20	どれみクリニック 基常小児科実習 (2名)		14:00	総合医療学実習 (シミュレータ実習) 【スキルアップセンター】	山形 (大田総合医 育成センター)
水	7:30	早朝セミナー 【みらい棟 1F 初期研修医室】	石橋 (総合医療学)	14:00	乙立診療所実習 (2名)	内科学第一教員
	9:30	総合診療外来実習 (木曜午前中にシミュ実習の学生) 【附属病院 1F 外科外来】			わたなべこども レディースクリニック 実習 (3名)	渡辺
木	8:30	家庭医医療実習 (2名) 出雲市民病院 1F 受付	木島 (総合医療学)	14:00	乙立診療所実習 (2名)	内科学第二教員
	9:30	総合医療学実習 (シミュレータ実習) 【スキルアップセンター】		13:30	総合医療学実習 (シミュレータ実習) 【内視鏡手術トレーニングセン ター】 ※地図参照	黒河内 (大田総合医 育成センター)
金		診療所実習 (各1名)			乙立診療所実習 (2名: 16:30終了)	内科学第三教員
		すぎうら医院	杉浦・美川	14:00	総合医療学実習 (シミュレータ実習) (16:00終了) 【スキルアップセンター】	本田 (大田総合医 育成センター)
		手納医院	手納			
		在宅診療所いずも	宮本	17:00	総括 (大学にて) 【みらい棟 2F 地域医療交流サロン】	担当教員
		遠藤クリニック	遠藤			

地域医療支援学講座

1年間のあゆみ





3 1年間のあゆみ

6) 地域医療病院実習

プライマリケアの近接性、包括性、継続性、協調性、責任性を学ぶために、また大学附属病院では見ることができない医療の姿を経験するために、5年次・6年次の地域医療実習を行っている。

県内中山間地を中心にして50弱の医療機関に協力していただき、これらの医療機関で5年次後半には2週間必修で、小規模医療施設、中規模医療施設をバランスよく臨床実習を行う。また6年生になると選択科目として、前述の医療機関に比較的都市部の20程度の施設を加えた、70医療施設の中から選択して臨床実習を行っている。4週間以上希望により何週間でも可能である。また平成26年度からは地域医療機関に保健所も加え、地域保健に興味を持つ学生を受け入れている。平成27年度は3名が合計8週間の保健所実習を行った。

■平成27年度 5年次臨床実習

4月				5月				6月				7月				8月				9月				10月				11月				12月				1月			2月			3月		
3w	4w	5w	6w	7w	8w	9w	10w	11w	12w	13w	14w	15w	16w	17w	18w	19w	20w	21w	22w	23w	24w	25w	26w	27w	28w	29w	30w	31w	32w	33w	34w	35w	36w	37w	38w	39w	40w	41w	42w					
																地域 実習																			学年末 学力試験									

- (1)必修科11科（内科7、外科2、小児、産婦）は4～5名が2週間ずつ、他の14診療科は1週間ずつ実習する。
- (2)「検・病」は臨床検査、病理部、輸血部、感染対策・医療安全、薬剤部
- (3)「総・地」は総合医療学、地域医療教育学、地域医療支援学、地域医療政策学
- (4)地域医療実習は、僻地を含む地域医療病院での実習とし、2週間ずつ5クールに分けて実習する。
- (5)前半の火曜日の5コマ目は腫瘍学、木曜日の5コマ目は漢方医学の講義を行う。
- (6)学年末学力試験は、全講座（診療科）で実施し、その結果は卒業要件とする。

■平成27年度 6年次臨床実習

39	40	41	42	43	44	45	46	47	48	49	50	51	52	53	54	55	56	57	58	59	60	61	62	63	64	65	66
附属病院実習 島根県立 中央病院実習 地域医療実習		附属病院実習 島根県立 中央病院実習 地域医療実習		附属病院実習 島根県立 中央病院実習 地域医療実習		附属病院実習 島根県立 中央病院実習 地域医療実習		附属病院実習 島根県立 中央病院実習 地域医療実習		附属病院実習 島根県立 中央病院実習 地域医療実習		附属病院実習 島根県立 中央病院実習 地域医療実習		附属病院実習 島根県立 中央病院実習 地域医療実習		附属病院実習 島根県立 中央病院実習 地域医療実習		附属病院実習 島根県立 中央病院実習 地域医療実習		附属病院実習 島根県立 中央病院実習 地域医療実習		附属病院実習 島根県立 中央病院実習 地域医療実習		附属病院実習 島根県立 中央病院実習 地域医療実習		卒業試験	

- (1)選択実習（附属病院、県中、地域）は28週（7クール）とし、原則として1クール4週とする。
- (2)地域実習は、僻地に出雲・松江地区の医療機関加えた島根県内の全協力病院での実習とする。
- (3)県中及び地域実習は適当に参加者数を合わせて20名以上とする。
- (4)選択実習期間中の内、8週は自習実習週とする。この間の病院見学、マッチング試験の受験は認める。
- (5)卒業試験は、実施を希望する講座のみとする。



7) 夏季・春季地域医療実習、フレキシブル実習

島根大学医学部では島根県と共催し、地域の医療機関での活動や連携を体験・学習し、地域医療や公衆衛生業務に対する理解を深めることを目的とする春季・夏季地域医療実習を行っている。この実習では県内の各保健所が提案するプログラムに沿い、学生はそれぞれの地域で机上では得られない経験を積んでいる。

またそれとは別に、より主体的に島根の地域医療に対する理解を深めてもらう為に、学生自らが企画立案する自主企画型フレキシブル実習も行っている。最近では県内の病院企画型、市町村企画型等、地域から学生へ発信する企画も増えており望ましい限りである。また新たに、医師に密着し、医師の生活を体感する、医師密着型の実習も行い、「自分の将来像が描けた」「医師という職業のみでなく、医師の生活の実際も聞けた」と学生からは好評であった。

■平成27年度夏季地域医療実習

【期間】 8月17日（月）～8月21日（金）

実施機関	地区等		日程	参加人数
松江保健所	松江		8月18日(火)～8月20日(木)	3
雲南保健所	雲南		8月18日(火)～8月20日(木)	8
出雲保健所	出雲		8月18日(火)～8月20日(木)	3
県央保健所	県央		8月18日(火)～8月20日(木)	4
浜田保健所	浜田		8月18日(火)～8月20日(木)	4
益田保健所	益田		8月18日(火)～8月20日(木)	3
隠岐保健所	隠岐	島後	8月17日(月)～8月19日(水)	5
		島前	8月17日(月)～8月19日(水)	5

計35名

学年別内訳

1年生	2年生	3年生	4年生
20名	8名	3名	4名

大学別内訳

島根大学	自治医科大学	山口大学
25名	9名	1名





3 1年間のあゆみ

■夏季地域医療実習報告会

【日 時】平成27年8月21日（金） 14：30～16：30

【場 所】島根大学医学部みらい棟4Fギャラクシー

【参加者】医学生30名、保健所・病院・大学関係者18名

【概 要】

今回の報告会は実習参加者が交流を深めながら島根の地域医療について意見交換してもらう事を目的にワールドカフェ形式で行った。「実習で一番印象に残った体験」「島根の地域医療の良いところ・課題」「地域医療にどう関わっていくか？」をテーマに活発に意見交換が行われた。少人数でディスカッションを行うことで、学生同士、大学間を超えた横のつながりが出来たと学生からは好評であった。



■平成27年度夏季フレキシブル実習

フレキシブル実習協力機関：

浜田医療センター、益田赤十字病院、飯南町立飯南病院、公立邑智病院、出雲市立総合医療センター、六日市病院、島根県心の医療センター、大田市立病院、気仙沼市立本吉病院、鹿児島離島実習（順不同）
参加者：12名

■平成27年度夏季フレキシブル実習報告会

【日 時】平成27年10月29日（木） 18：00～20：00

【場 所】島根大学医学部 地域医療交流サロン

【参加者】計10名（学生8名、支援学講座2名）

【概 要】

前期にフレキシブル実習に参加した8名の学生による報告会を開催した。地域での様々な経験により、学生からは「大学での臨床実習に対してモチベーションがあがった」「もっと早く行っていたら、5年生の臨床実習を更に有意義に行えたのでは」との意見があった。県内外の地域でそれぞれ活躍されている先生方の元で実習し、地域医療を支える医師像についても、それぞれの思いを活発に意見交換した。





■平成27年度春季地域医療実習

【期間】 3月7日（月）～3月11日（金）

実施機関	地区等		日程	参加人数
松江保健所	松江		3月7日(月)～3月9日(水)	3
雲南保健所	雲南		3月7日(月)～3月9日(水)	2
出雲保健所	出雲		3月8日(火)～3月10日(木)	3
県央保健所	県央		3月7日(月)～3月9日(水)	3
浜田保健所	浜田		3月8日(火)～3月10日(木)	5
益田保健所	益田		3月8日(火)～3月10日(木)	3
隠岐保健所	隠岐	島後	3月7日(月)～3月9日(水)	4
		島前	3月7日(月)～3月9日(水)	5

計28名

学年別内訳

1年生	2年生	4年生
10名	17名	1名

※春季地域医療実習については、参加者は島根大学生のみであった。



■春季地域医療実習報告会

【日 時】 平成28年3月11日（金） 14：30～16：30

【場 所】 島根大学医学部みらい棟4Fギャラクシー

【参加者】 医学生26名、保健所・病院・大学関係者11名

【概 要】

3月7日～3月10日の医療実習に参加した報告会をワールドカフェ方式でグループに分かれて「実習で一番印象に残った体験は?」「島根の地域医療の良いところ・課題は?」「島根の地域医療の改善策は?」をテーマに話し合いを行った。

和気あいあいと話し合いが進む中、地域医療についてのまとめの発表では、医療だけに留まらず街づくりや働きやすい環境に関する意見も出、実習に参加した学生が色々なことを吸収してきたことが垣間見える報告会となった。





■平成27年春季フレキシブル実習

フレキシブル実習協力機関：波佐診療所、大田市立病院、雲南市立病院、益田赤十字病院、浜田医療センター、飯南町立飯南病院、哲西町診療所（岡山県）、石巻市立開成仮診療所、気仙沼市立本吉病院、柏市地域医療センター等（順不同）

参加者：12名





2

学生支援等

1) 地域医療セミナー

平成27年度は下記の地域医療セミナーを学内にて開催した。

■第1回地域医療セミナー

【テーマ】総合診療医という生き方

【日 時】平成27年4月20日（月） 18:00～19:30

【場 所】みらい棟4Fギャラクシー

【講 師】浜田市国保診療所連合体
大麻診療所 所長 飯島慶郎 氏

【参加者】計19名

【概 要】

学生からは「医療は「対人援助」であるという言葉が印象に残った」「医療に求められるものと現代の医療が提供しているものの隙間を埋めるヒントをいただけた気がした」等の感想が聞かれ、「総合診療医とは」だけではなく、「医療とは」という事を考える良い機会をいただいた。



■第2回地域医療セミナー

【テーマ】20年後の医療の姿とそこで求められる医師像

【日 時】平成27年5月8日（金） 18:00～19:30

【場 所】みらい棟2F共通カンファレンス I

【講 師】文部科学省科学技術・学術政策研究所
客員研究官 長谷川敏彦 氏

【参加者】計32名

【概 要】

未来の医療についてご講演いただいた。

「医師はプレイイング・マネージャー」というマネジメントの話から、大転換する医療の話まで様々な視点で学生に向けてメッセージを贈ってくださった。



■第3回地域医療セミナー

【テーマ】地域包括ケア時代の在宅医療

【日 時】平成27年6月3日（水） 18:00～19:30

【場 所】みらい棟4Fギャラクシー

【講 師】東京ふれあい医療生活協同組合梶原診療所
在宅総合ケアセンター長／病棟医長 平原佐斗司 氏

【参加者】計38名

【概 要】

「地域包括ケア時代の在宅医療」についてご講演いただいた。

先生は住民の方のことを本当に考えて活動されており、その活動の中から「地域に応じた在宅医療」、





3 1年間のあゆみ

「地域のニーズに根ざすことの重要性」、「多職種連携」、「ケアコミュニティ」について等、お話しいただいた。

■第4回地域医療セミナー

【テーマ】地域の小規模多機能病院の未来

【日 時】平成27年7月3日（金） 18:00～19:30

【場 所】みらい棟4Fギャラクシー

【講 師】宮城県気仙沼市立本吉病院 院長 齋藤稔哲 氏

【参加者】計26名

【概 要】

学生からは「広く、優しく受け入れる器の大きさ、柔軟性を感じました」「先生のような医師になりたいです」「もっと勉強を頑張ろうと思いました」といったコメントをいただいた。



■第5回地域医療セミナー

【テーマ】地域医療はほんとうにおもしろい！

～地域包括ケアからまちづくりへ～

隠岐の島、そして岡山県哲西町での取り組みから～

【日 時】平成27年9月4日（金） 18:00～20:00

【場 所】みらい棟2F共通カンファレンスⅠ

【講 師】岡山大学医学部地域医療人材育成講座 教授 佐藤 勝 氏

【参加者】計24名

【概 要】

「目の前の人をまずは一生懸命見る。何よりも一番の政策とは医療をすること。地域包括ケアをしっかりと行っていくことでまちづくりができた」という言葉から、医師として、そして何より人として、困っている人を助けるという姿勢で、地域医療に取り組んでいらっしゃる姿に感銘を受けた。地域医療について考える貴重な機会をいただいた。



■第6回地域医療セミナー

【テーマ】出雲弁の特徴について～「方言医療」

…方言は大切なコミュニケーションツール

【日 時】平成27年11月24日（火） 18:00～19:00

【場 所】みらい棟2F共通カンファレンスⅠ

【講 師】出雲弁保存会 会長 藤岡大拙 先生

【参加者】計31名

【概 要】

出雲弁の特徴を主に説明していただく中で出雲の人たちの性格など歴史を踏まえて説明いただき、出雲弁の患者さんとのコミュニケーションの取り方を教えていただいた。症状など正しく聞き取りをするためには何ができるのかを楽しく様々な例を踏まえてご講義いただいた。

学生さんからは「わからなかった出雲弁を客観的に学べてよかった」「これからの実習に生かしてい





たい」などの感想が聞かれた。

■第7回地域医療セミナー

【テーマ】地域包括ケアシステムと社会医療法人仁寿会の取り組み

【日 時】平成27年12月11日（金） 18：00～19：30

【場 所】みらい棟2F共通カンファレンスⅠ

【講 師】仁寿会加藤病院 事務局長 田中 修 氏

【参加者】計12名

【概 要】

川本町の現状からこれから日本で必要になる地域包括ケアについて、医療従事者支援者としての立場からわかりやすくお話しいただいた。

学生さんからは、「地域包括ケア・在宅医療がどのようなものか知ることができた。在宅にとっても力を入れていること、全員がより良い病院・環境を作るために何が必要か考えていることが印象に残りました」「来年の実習で地域に出る機会があれば、加藤病院にも行って地域包括ケアの体制がどのようなものか見てみたい」といった声が聞かれた。



■第8回地域医療セミナー

【テーマ】卒後の進路、私はこうして決めました。

【日 時】平成28年1月28日（木） 18：00～19：30

【場 所】みらい棟2F共通カンファレンスⅠ

【講 師】島根大学医学部 脳神経外科学講座 助教 中川史生 氏
浜田医療センター 初期研修医 辻 将大 氏

【参加者】計10名

【概 要】

島根大学医学部ご出身の二人の学生時代・卒後のキャリアの軌跡をお話しいただき、あらかじめ参加学生から募った質問「研修先の選択の仕方や基準は？」「初期研修で最も苦労したことは？」等にもお答えいただいた。

全場面で全力投球されるのではなく、「緊急時に何もできないのは嫌」「人の命を救う事だけでなく、どうやって社会生活に復帰させられるかまで考える事を大切にしたい」等ご自分が大切にしているポイント、価値観をよく見極められながら進路選択や今の仕事をされていることが印象的であった。



■第9回地域医療セミナー

【テーマ】あんきにころり

【日 時】平成28年2月10日（水） 18：00～19：30

【場 所】みらい4F棟ギャラクシー

【講 師】宮崎大学医学部地域医療・総合診療講座 教授
吉村 学 氏

【参加者】計22名





3 1年間のあゆみ

【概 要】

がん、心筋梗塞、脳卒中のどれで亡くなりたいかで、分かれて話し合うという斬新なグループワークを行い、楽しく学ぶことが出来た。

また、先生の地域医療に関する色々な取り組みを楽しくお話しいただいた。最後は吉村先生の印象的な患者さんのムービーをご紹介いただき、地域医療とはなにか、そもそも医療とはなにかを考える時間となった。

2) ランチョンセミナー

平成27年度は下記のランチョンセミナーを学内にて開催した。

■第1回ランチョンセミナー

【日 時】平成27年4月14日（火） 12:00～12:40

【場 所】みらい棟 2F地域医療交流サロン

【講 師】出雲市立総合医療センター 内科医長 結城美佳 氏

【参加者】計19名

【概 要】

内視鏡分野で全国的に活躍されている医師であり、二児の母親でもある結城先生に、それぞれの立場での役割を充実させるための工夫やそれができた時の喜びをお話しいただいた。様々な葛藤を持ちつつもやりたいことを継続するために、自分の得意なことをつくり、効率よくできる居場所を探そうというアドバイスをいただいた。



■第2回ランチョンセミナー

【日 時】平成27年5月12日（火） 12:00～12:40

【場 所】みらい棟 2F地域医療交流サロン

【講 師】島根大学医学部 産婦人科学講座 講師 金崎春彦 氏

【参加者】計24名

【概 要】

研究の面白さ、大学病院ならではの面白さをお話しいただいた。自分は研究なんて向いていないと勝手に思い込まず視野を広く持って将来を考えてほしいとの助言をいただいた。出産のタイミング等についてのアドバイスも学生にとって将来計画を考える上で参考になったと思う。



■第3回ランチョンセミナー

【日 時】平成27年6月10日（水） 12:00～12:40

【場 所】みらい棟 2F地域医療交流サロン

【講 師】島根大学医学部 内科学第一講座 准教授 山内美香 氏

【参加者】計25名

【概 要】

医師となる「覚悟」、働く場所・地域を選ぶ際「覚悟」をすることの意義等を教えていただいた。また、様々なバックグラウンドが組織人としての力量を養い、1人+1人が2人以上になる組織を構築で





きる医師を育成したいという話も印象的であった。

■第4回ランチョンセミナー

【日 時】平成27年7月9日（木） 12：00～12：40
【場 所】みらい棟 2F地域医療交流サロン
【講 師】島根大学医学部 眼科学講座 講師 松岡陽太郎 氏
【参加者】計18名
【概 要】

眼科医になった経緯や、眼科医になってからのキャリアをお話しいただいた。最後に学生へ、学生時代の同期・部活の先輩・後輩や友人は後々の財産であること、外科系に行きたい人は手術に対する覚悟が必要だということ、人生は不公平なものだけどどこにいても自分次第で成長できるというアドバイスをいただいた。



■第5回ランチョンセミナー

【日 時】平成27年10月14日（水） 12：00～12：40
【場 所】みらい棟 2F地域医療交流サロン
【講 師】島根大学医学部 器官病理学 助教 荒木亜寿佳 氏
【参加者】計23名
【概 要】

人生は選択と決断の連続であり、「To make a happy decision・・・」を信念として配偶者の人生、子供の人生、家族皆それぞれの人生がある中で、自分らしい選択をしていくというお話をいただいた。



■第6回ランチョンセミナー

【日 時】平成27年11月20日（金） 12：00～12：40
【場 所】みらい棟 2F地域医療交流サロン
【講 師】島根大学医学部 脳神経外科学講座 助教 中川史生 氏
【参加者】計10名
【概 要】

ドクターはもてるかなどの裏話や、趣味の話などを交えながら、初期研修・後期研修において、何を学んでそこで得た知識がどう役立ったか、また、ご自身の性格や特性を踏まえてどう考えて脳神経外科を選ぶに至ったかについてとても分かりやすく、また楽しくお話しいただいた。



■第7回ランチョンセミナー

【日 時】平成27年12月21日（月） 12：00～12：40
【場 所】みらい棟 2F地域医療交流サロン
【講 師】北海道家庭医療学センター後期研修医 三島千明 氏
／北海道札幌市手稲溪仁会病院 臨床研修部
教育担当責任者 Shadie Constantine 氏





3 1年間のあゆみ

【参加者】計15名

【概 要】

ご自身の経験から、女性医師のキャリアなどについてお話しいただいた。海外でのキャリア経験の話も交えながら、ワークライフバランスについても触れていただき、仕事とプライベートの両立は万国共通の話題でもあることから、学生からも具体的な質問が出て大いに盛り上がる時間となった。

■第8回ランチョンセミナー

【日 時】平成28年1月26日（火） 12：00～12：40

【場 所】みらい棟2F地域医療交流サロン

【講 師】内科学講座 呼吸器・臨床腫瘍学 助教 津端由佳里 氏

【参加者】計17名

【概 要】

薬剤師から医師へと転向した理由・社会人から医師を目指そうと思ったきっかけなど、自分自身の思い、キャリアアップとの兼ね合い、二児の母であることの子育てへの思いなどすべて含めて卒業後の進路を決定したとお話しいただいた。患者さんへと関わるときの思いとして、座右の銘「医者とは病気を治せると思っているがそうではない。しかしすべての人に平等に手当てすることはできる。」を紹介していただき、医師として持つべき姿勢をお教えいただいた。



■第9回ランチョンセミナー

【日 時】平成28年2月12日（金） 12：00～12：40

【場 所】みらい棟2F地域医療交流サロン

【講 師】島根大学医学部 消化器・総合外科学講座

助教 百留亮治 氏

【参加者】計12名

【概 要】

恩師との出会いの中で、外科の基本である手術のことだけでなくそれに伴う責任感も教えてもらい、外科医としての道を進んできたとお話しいただいた。現在やるべきこととして、日本の医療の現状を踏まえて、外科医を増やしていくために様々な取り組みを行っておられることをお教えいただいた。



3) ビデオセミナー

学生に対して幅広く勉強する機会を増やすと共に、職員の医学知識のブラッシュアップも目的に、週1回昼休憩の12時から30分程の間、地域医療交流サロンにてビデオ上映をしている。



	上映日	シリーズ名	タイトル	講師
1	4月7日	「聖路加GENERAL」	第1回「どのがん検診を受けるべき？」	徳田 安春氏 (筑波大学附属病院水戸地域医療教育センター 副センター長)
2	4月21日		第2回「がんを疑う症」	
3	4月28日		第1回「咽頭炎」	大曲 貴夫氏 (静岡県立がんセンター 感染症内科)
4	5月19日		第2回「尿路感染症」	
5	5月26日		第1回「がんの一般情報について」	大山 優氏 (亀田総合病院 腫瘍内科 部長)
6	6月2日		「Oncologic emergenciesとがん性疼痛管理について」	
7	6月9日		「階段がづらいのは年齢のせい？」	香坂 俊氏 (慶應義塾大学医学部 循環器内科 助教)
8	6月16日		「夜間の呼吸困難は花粉症のせい？」	
9	6月23日		「心雑音と言われたのですが元気なんです」	
10	6月30日		「ためらってはいけないCAB」	
11	7月7日		Part 1「脳梗塞を見逃さないために」	竹見 敏彦氏 (聖路加国際病院 神経内科 副医長)
12	7月14日		Part 2「パーキンソン病の症状を覚えよう」	
13	7月21日		Part 3「しびれ」	
14	8月25日		Part 4「認知症」	小松 康弘氏 (聖路加国際病院 腎臓内科 部長)
15	9月1日		第1回「CKD」	
16	9月8日		第2回「尿以上の検査方針」	
17	9月15日		第3回「高カリウム血症」	
18	9月29日		第4回「急性腎障害 (AKI)」	山田 宇以氏 (聖路加国際病院 心療内科)
19	10月6日		Part 1「プライマリ・ケアで診る不眠症」	
20	10月13日		Part 2「難しくないうつ病の診断」	
21	10月20日		Part 3「今日からできるうつ病診断」	出雲 博子氏 (聖路加国際病院 内分泌代謝科 部長)
22	10月27日		第1回「脳卒中から自殺未遂まで」	
23	11月10日		第2回「消化性潰瘍、高血圧、便秘から見つかった内分泌疾患」	
24	11月17日		第3回「あなたのせいではありません」	
25	11月24日		第4回「糖尿病の悪化だと思ったら」	
26	12月1日		第5回「ただ風邪といっても」	
27	12月8日		第6回「2次性高血圧を見逃さない」	伊賀 幹二氏 (伊賀内科 循環器科 院長)
28	12月15日	激辛！伊賀流心臓塾	第9回「非専門医のための心エコー講座」	
29	12月22日		第10回「心雑音を指摘された無症状の患者さん」	平本 力氏 (石岡・平本皮膚科医院 院長)
30	1月5日	平本式皮膚科虎の巻	「まずは、皮膚科診療の流れ/ステロイド外用剤で湿疹成敗！」	
31	1月12日		「湿疹に擬する曲者を見破る！その1/その2」	
32	1月19日		「因・機・疹・遠・近・考の極意を知れ！その1/その2」	
33	2月9日		「出陣前の腕試し！極意を体得せよ その1/その2」	
34	2月16日	プライマリケアでよく見る精神症状の診方と対応のコツ	第1回「これで安心！パニック障害と過換気症候群」	坂本 薫氏 (東京女子医科大学 精神医学講座 教授)
35	2月23日		第2回「そうだったのか！うつ病治療の最新エビデンス」	
36	3月1日	北米式★プレゼンテーション上達ライブ	第1回「Presenting Great Case」	ゴータムA.テシュパンデ氏 (聖路加国際病院)



4) 学生等個別面談

地域枠等及び奨学金受給の学生に対して、個別面談を実施している。学年担当教官がそれぞれ分担して、年1回の定期的な面談と必要に応じて不定期に面談を行っている。

生活状況、学習状況など把握するとともに、相談に応じたり、必要に応じて指導したりしている。



平成27年度面談実施者のべ数：149名（2月1日時点）

平成27年度 地域枠等学生数

（ ）内は奨学金なし

		学 生						学生計
		1年生	2年生	3年生	4年生	5年生	6年生	
地域枠	(一般)	5(1)	8	13	11	7	9	53(1)
	(学士)	—	—	1(1)	4(3)	1(1)	2(1)	8(6)
緊急医師確保		5	5	5	8	8	1	32
県 内 定 着		7	8	8	5	6	—	34
地域枠等合計		17(1)	21	27(1)	28(3)	22(1)	12(1)	127(7)
奨 学 金 の み		2	6	3	5	9	6	31
奨学金のみを含めた合計		19(1)	27(0)	30(1)	33(3)	31(1)	18(1)	158(7)

5) サークル活動支援

(1) 島根大学医学部地域医療研究会支援

地域医療研究会では、月2回程度の部会、夏の地域医療合宿に加え、不定期にイベントを行っている。当講座では部会の場所の提供と必要に応じて相談にのる等のサークル支援を行っている。

今年度は夏の地域医療合宿に合わせて、認知症に関するプレゼンテーションを行った。その結果については来年度のプライマリ・ケア連合学会学術総会で発表する予定である。

■地域医療研究会 夏季合宿

【日 時】平成27年8月16日（日）・17日（月）

【場 所】（浜田市）弥栄診療所・寿光園他

【内 容】地域医療研究会が浜田市弥栄地域で夏のフィールドワークを行った。各グループに分かれて、弥栄診療所で患者さんのお宅を訪問し、また寿光園（老人グループホーム施設）へ行き、見学・また認知症に関する発表会を行い、住民の皆さんが参加された。また、県立大学の学生との意見交換を行った。



(2) 国際保健同好会（ポラリス）支援

週1回部会を行っており、その会場として地域医療交流サロンを提供して、必要に応じて相談にのっている。



6) 医師のキャリア支援

しまね地域医療支援センターと連携しながら、医師のキャリア支援を行っている。当講座教授がしまね地域医療支援センターの理事、専任医師、企画委員長を務め、その運営にも積極的に関わっている。地域枠等卒業医師及び奨学金受給医師等の対象医師に対して、個人面談を行い、キャリアプランの作成支援を行うとともに、レジナビ、マッチング説明会などにも積極的に関わっている。

またしまね地域医療支援センターから委託を受け、総合診療医育成ネットワーク事業、ワークライフバランス支援を行っている（これについては別項で掲載する）。



（ ）内は奨学金非受給者

		研 修 医					研修医計
		初期1年	初期2年	後期1年	後期2年	後期3年以降	
地域枠	(一般)	10	10(2)	10(2)	4(1)	—	34(5)
	(学士)	3(1)	1	1(0)	2(1)	3(0)	10(2)
緊急医師確保		3	—	—	—	—	3
県 内 定 着		—	—	—	—	—	0
地域枠等合計		16(1)	11(2)	11(2)	6(2)	3(0)	47(7)
奨 学 金 の み		11	9	6	11	18	55
奨学金のみを含めた合計		27(1)	20(2)	17(2)	17(2)	21(0)	102(7)



3 地域医療交流サロンの取組み

1) 地域医療交流サロン・みらいラウンジ

平成22年に学内に「地域医療交流サロン」を設置した。ここは現在みらい棟2Fの当講座スタッフルームの向かいにあり、地域枠推薦入学等の学生と行政・医療機関との交流、当講座教員との面談、地域医療関係のサークル活動、ランチョンセミナー開催時等に利用されている。学生が地域の行政担当者・医療機関関係者と顔の見える関係を作ったり、地域医療のモチベーションを維持させたりするのに多いに役立っていると言える。さらに「地域医療交流サロン」には各学会誌や島根大学関連情報誌の掲示に加え地域医療、公衆衛生、統計学等に関する約700冊の蔵書がある。また、何も予定がない時には学生の学習の場所としても頻繁に活用されている。

みらい棟1Fに設置された「みらいラウンジ」には県内の行政・医療機関の広報紙を掲示し、学生への情報提供の場としても一役を担っている。



地域医療交流サロン



みらいラウンジ

2) 学生と行政・医療機関との交流

地域枠推薦入学等の学生の出身地域へのモチベーションを持続させるために、県内の行政・医療機関が企画・立案した交流会が実施され、当講座教員も参加している。

交流会では市町村長や先輩医師等の出席があり、地域の実情や医療の現状等を直接聞くことができ、学生の参加率も高い。平成27年度は下記の交流会が行われた。

■地域別交流会

●益田市交流会

【日 時】平成27年5月12日（火）

【場 所】いつものSAKABA（出雲市内）

●大田市交流会

【日 時】平成27年7月1日（水）

【場 所】みらい棟4Fギャラクシー

【日 時】平成28年3月25日（金）

【場 所】大田市内

**●浜田市交流会**

【日 時】平成27年11月13日（金）

【日 時】平成28年3月24日（木）

【場 所】白龍（出雲市内）

【場 所】浜田公民館（浜田市内）

●吉賀町交流会

【日 時】平成27年9月29日（火） 12：00～13：00

【場 所】みらい棟2F地域医療交流サロン

●隠岐交流会

【日 時】平成27年4月20日（月） 18：00～

【場 所】神門（出雲市内）

●雲南市交流会

【日 時】平成27年11月16日（月） 18：00～

【場 所】おくに（出雲市内）

●邑智郡交流会

【日 時】平成28年3月26日（土）

【場 所】おくに（出雲市内）

3）学生間、学生と教員等との交流**（地域枠等全学年集会、新入生説明会・意見交換会、学年会）**

今年度は、初の試みとして、地域枠等の学生が学年の垣根を越え一同に集まる地域枠等全学年集会を学生主催で行った。同じ学年の学生はもちろん先輩や後輩との関わりを持ち、悩みを相談したりアドバイスをしたりしてとても良い集まりとなった。来年度からも継続していきたいと考えている。

また4月の入学式の後に地域枠推薦入学等の新入生16名を対象に「新入生説明会・意見交換会」を開催し、当講座や各機関のサポート体制の説明をした。また、地域枠学生としての豊富を全新生に語ってもらい、今後の島根の地域医療についての意見交換も行った。病院長、医学部長、先輩学生も出席し、副知事にも参加していただいた。

さらに、夏以降に地域枠医学生相互、医学生と当講座教員、しまね地域医療支援センター職員、県職員等の交流・意見交換・親睦を目的として学年別集会を開催した。

■平成27年度地域枠等全学年集会

【日 時】平成27年9月25日（金） 19：00～21：00

【場 所】ラピタウェディングパレス 孔雀（出雲市内）

【参加者】72名





3 1年間のあゆみ

■平成27年度新入生説明会・意見交換会

【日 時】平成27年4月6日（月） 17:00～19:00

【場 所】島根大学医学部附属病院 食堂 ラパン

【参加者】43名



■平成27年度学年会

●6年生学年会

【日 時】平成27年6月5日（金）

19:30～21:30

【場 所】杉の屋（出雲市内）

【参加者】14名

●5年生学年会

【日 時】平成27年10月26日（月）

18:00～20:00

【場 所】杉の屋（出雲市内）

【参加者】11名

●4年生学年会

【日 時】平成27年10月5日（月）

18:00～20:00

【場 所】杉の屋（出雲市内）

【参加者】16名

●3年生学年会

【日 時】平成28年2月5日（金）

18:00～20:00

【場 所】杉の屋（出雲市内）

【参加者】15名

●2年生学年会

【日 時】平成27年11月10日（火）

18:00～20:00

【場 所】杉の屋（出雲市内）

【参加者】12名

●1年生学年会

【日 時】平成27年11月30日（月）

18:00～20:00

【場 所】杉の屋（出雲市内）

【参加者】計8名

4) 自治医大学生及び島根大学地域枠有志学生意見交換会

【日 時】平成27年8月21日（金） 9:00～12:00

【場 所】みらい棟4Fギャラクシー

【参加者】12名



5) 図書・DVDの貸出し事業

「地域医療交流サロン」には地域医療、公衆衛生学、疫学、統計学、臨床関係等に関する約700冊の蔵書、雑誌、「診療の達人」シリーズなどのDVDがあり、随時学生に貸出しを行っている。





4

総合診療専門医育成ネットワーク

一般社団法人しまね地域医療支援センターより委託を受け、総合診療専門医育成ネットワーク事業を実施した。

1. 各医療機関間のネットワークづくり

県内の日本プライマリ・ケア連合学会認定の9つのプログラム責任者や、指導医が適宜会議を開催し、ネットワークを作っている。

1) 総合診療専門医育成ネットワーク世話人会・プログラム責任者意見交換会

(1) 世話人会議 3回

5月23日(土)

- ・平成27年度取り組み計画について(全体、若手総合診療医FD、PTLS)
- ・新専門医制度に向けた情報共有(全国的な状況、各々のプログラム予定、新専門医制度の総合診療専門医育成に向けた調査)
- ・県内のプログラムの連携に向けた調査
- ・「総合医・家庭医育成ネットワーク」から「総合診療専門医育成ネットワーク」への名称変更

11月14日(土)

- ・各プログラムの課題、改善案の共有

2月21日(日)

- ・新専門医制度における総合診療プログラムについて(各々のプログラムの課題について情報共有)
(プログラム間の連携の為に施策)

(2) 世話人会議(メール会議) 11回

4月7日 平成27年度取り組み計画について

4月21日 総合診療専門医の研修カリキュラム公開について

6月30日 専門医取得モデルプログラム集改定について(家庭医療専門医育成プログラム)

8月11日 総合診療専門医の整備基準の情報共有

8月25日 総合診療領域のプログラム整備基準の公開についての情報共有

12月14日 第1回島根PTLS開催について

12月22日 新専門医制度における総合診療プログラムについてのアンケート調査

1月27日 来年度スキルアップセミナー希望調査





3 1年間のあゆみ

- 2月4日 英国GPによる講演会（米子）の情報提供
- 2月18日 新専門医制度 プログラム申請についての情報提供
- 3月8日 プログラム連携についての情報提供

2. 総合診療医育成のためのプログラム作成・指導体制の整備支援

1) 2017年度開始の新専門医制度による総合診療プログラムの申請支援を行っている。

2) 日本プライマリ・ケア連合学会後期研修プログラムの実施

平成27年度現在10名の医師が後期研修中である。

県内には日本プライマリ・ケア連合学会認定の9プログラムがある。その内2プログラムが年度当初ver.1であったが、プログラムの改訂を促し、全プログラムver.2の認定を取得した。

- ・島根大学総合医・家庭医養成プログラム（ver.2.0）
- ・島根県立中央病院地域医療・家庭医療プログラム（ver.2.0）
- ・出雲家庭医療学センター後期研修プログラム（ver.2.0）
- ・雲南市立病院総合医・家庭医教育プログラム（ver.2.0）
- ・大田市立病院総合診療医・家庭医育成プログラム（ver.2.0）
- ・家庭医療・地域包括ケア 仁寿・川本あいあいプログラム（ver.2.0）
- ・浜田市地域包括ケア家庭医療専門医コース（ver.2.0）
- ・津和野共存病院総合診療医・家庭医育成プログラム（ver.2.0）
- ・県境を含む中山間地域で育む総合医研修プログラム（ver.2.0）

3) 日本プライマリ・ケア連合学会指導医取得への働きかけ

公益社団法人益田市医師会立 益田地域医療センター医師会病院

3. 総合診療医等の研修

1) 総合診療スキルアップセミナーへの参加支援

NPO日本医療教育プログラム推進機構が開催する「総合診療医スキルアップセミナー」への参加支援を行い、ネットワークに関係した医療機関の医師が参加した。

【日 時】平成27年4月～平成28年3月（8月と12月は開催なし）

原則第4日曜日 9：00～17：00

【場 所】AP浜松町（東京都港区浜松町）

【参加者】毎月1名ずつ、年間9名参加





【総合診療スキルアップセミナー 内容・参加者】

Date		Subject	Lecturer	Affiliation	受講者
2015年 4月26日	9：00～12：00	ケースカンファレンス	徳田 安春 先生	JCHO本部研修センター長	受講者なし
	12：45～14：45	循環器疾患(1)	澤村 匡史 先生	宇城総合病院 循環器内科	
	15：00～17：00	救命救急(1)	寺澤 秀一 先生	福井大学 地域医療推進講座 教授	
2015年 5月24日	9：00～12：00	ケースカンファレンス	山中 克郎 先生	諏訪中央病院 院長補佐	山内 延広 (加藤病院)
	12：45～14：45	総合診療	野口 善令 先生	名古屋第二赤十字病院 副院長	
	15：00～17：00	感染症	本郷 偉元 先生	武蔵野赤十字病院 感染症科 副部長	
2015年 6月28日	9：00～12：00	ケースカンファレンス	小林 裕幸 先生	筑波大学 教授・水戸地域医療教育センター センター副部長	受講者なし
	12：45～14：45	神経内科	福武 敏夫 先生	亀田メディカルセンター 神経内科 部長	
	15：00～17：00	小児医療	児玉 和彦 先生	こだま小児科医院 院長	
2015年 7月26日	9：00～12：00	ケースカンファレンス	徳田 安春 先生	JCHO本部研修センター長	阿部 顕治 (弥栄診療所)
	12：45～14：45	呼吸器疾患	皿谷 健 先生	杏林大学 医学研究科 第一内科学教室 講師	
	15：00～17：00	肝胆膵疾患	野々垣浩二 先生	大同病院 副院長	
2015年8月	休講				
2015年 9月27日	9：00～12：00	ケースカンファレンス	宮城征四郎 先生	群星沖縄臨床研修センター長	今田 敏宏 (県立中央病院)
	12：45～14：45	内分泌疾患	能登 洋 先生	聖路加国際病院 内分泌代謝科 医長	
	15：00～17：00	外科疾患	窪田 忠夫 先生	東京ベイ・浦安市川医療センター 外科	
2015年 10月25日	9：00～12：00	ケースカンファレンス	塩尻 俊明 先生	国保旭中央病院 総合診療内科 部長	白石 吉彦 (隠岐島前病院)
	12：45～14：45	救命救急(2)	植西 憲達 先生	藤田保健衛生大学 救急総合内科 教授	
	15：00～17：00	消化器疾患	横江 正道 先生	名古屋第二赤十字病院 第二総合内科 部長	
2015年 11月29日	9：00～12：00	ケースカンファレンス	西垂水和隆 先生	今村病院分院 救急・総合内科 部長	山口 拓也 (加藤病院)
	12：45～14：45	家庭医療	大曲 貴夫 先生	国立国際医療研究センター病院 国際感染症センター長	
	15：00～17：00	血液疾患	石綿 清雄 先生	虎の門病院 循環器センター内科 部長	
2015年12月	休講				
2016年 1月24日	9：00～12：00	ケースカンファレンス	徳田 安春 先生	JCHO本部研修センター長	白石 裕子 (隠岐島前病院)
	12：45～14：45	循環器疾患(2)	香坂 俊 先生	慶應義塾大学 医学部 循環器内科 特任講師	
	15：00～17：00	EBM	名郷 直樹 先生	武蔵野国分寺公園クリニック 院長	
2016年 2月28日	9：00～12：00	ケースカンファレンス	忽那 賢志 先生	国立国際医療研究センター病院 国際感染症センター	藤井 俊吾 (大田市立病院)
	12：45～14：45	精神疾患	大前 晋 先生	虎の門病院 精神科 部長	
	15：00～17：00	腎疾患	小松 康宏 先生	聖路加国際病院 腎臓内科 部長	
2016年 3月13日	9：00～12：00	ケースカンファレンス	宮城征四郎 先生	群星沖縄臨床研修センター長	大畑 修三 (加藤病院) 久長 恒洋 (六日市病院)
	12：45～14：45	整形外科	仲田 和正 先生	西伊豆病院 院長	
	15：00～17：00	膠原病	岸本 暢将 先生	聖路加国際病院 リウマチ膠原病センター 医長	



2) ブラッシュアップ講習会

総合医育成等に関して先進的な取組みをしている全国の先生に講演いただき、島根の研修プログラムをブラッシュアップするための指導医等を対象にした講習会を開催した。TV会議システムを活用して行った。

(1) ブラッシュアップ講習会 in 浜田

【日 時】平成27年7月11日（土） 14：00～17：30

【場 所】独立行政法人国立病院機構浜田医療センター

【参加者】32名

【講 師】沖縄県立中部病院 総合内科 尾原晴雄 氏

【演 題】沖縄県立中部病院の卒後教育（総合内科）の取り組みについて

【内 容】第1部（90分） 1）カンファレンス 2）ミニレクチャー・休憩

第2部（90分） 1）講演（60分） 2）意見交換（20～30分）

第3部 懇親会

【概 要】

松江から益田までの先生方にお越しいただき、カンファレンスでは活発な意見交換が交わされた。講演では、研修医が集まる沖縄中部病院の研修の実際や、総合診療科の魅力についてお話ししていただき大変刺激を受けた。浜田医療センターの研修医の先生から自分たちの研修をよりよくしていくために、自身が考えておられること、それへのアドバイス等の質問もあり、主体的に研修に取り組んでいる姿が見受けられた。



(2) ブラッシュアップ講習会 in 出雲

【日 時】平成27年11月14日（土） 14：30～17：30

【場 所】島根大学医学部講義棟1F国際交流ラウンジ

【参加者】10名

【講 師】勝川ファミリークリニック 医師 北村和也 氏

【演 題】根拠に基づいた予防医療を実践する

【内 容】現場における健診の疑問点、問題点の共有

外来での個々の患者に対するアプローチについて症例提示、ディスカッション

【概 要】

現場における健診の疑問点、問題点の共有や、外来での個々の患者に対するアプローチについてのディスカッションを行った。参加者からは「『健診は予後を改善しない』という言葉が衝撃的だった」「健



診と医療との関係や継続性の問題について、環境によって差があること、自分たちの環境が恵まれていることを感じた」等の感想が聞かれ、充実した時間になった。



3) 総合診療医後期研修プログラム参加医師の合同勉強会及び交流会

【日 時】平成27年11月14日（土） 17：30～18：00

懇親会 18：30～

【場 所】島根大学医学部講義棟 1F国際交流ラウンジ

【参加者】後期研修医 3名

【内 容】現在困っていること、改善案等について意見交換



4) 島根県若手総合診療医FD

ネットワークに参加している医療機関の若手医師自らが企画・実行するワークショップを平成26年度から開催している。

今年度は、出雲家庭医療学センター 藤原和成先生が企画代表となり指導医の教育スキルの向上がテーマであった。ワークショップでの学習とそれをホームの教育改善の取り組みにつなげることにより、参加者の医療機関における確実な教育の質改善を目標としたFDが3回行われた。

(1) 第1回若手総合診療医FD

【日 時】平成27年6月27日（土） 14：00～19：00

【場 所】島根大学医学部講義棟 1F国際交流ラウンジ

【参加者】13名

【内 容】①ワールドカフェ方式でのグループワーク
②意見をもとに有志で発表



(2) 第2回若手総合診療医FD

【日 時】平成27年9月26日（土） 13：00～18：40、27日（日） 8：00～13：00

【場 所】島根大学医学部みらい棟 4Fギャラクシー

【参加者】(26日) 7名、(27日) 12名

※プライマリ・ケア連合学会中国支部主催の若手FDと合同開催



3 1年間のあゆみ

(3) 第3回若手総合診療医FD

【日 時】平成28年1月9日(土) 14:00~17:30

【場 所】島根大学医学部みらい棟4Fギャラクシー

【参加者】7名

5) PTLS (Primary care Trauma Life Support) コース

ネットワークに参加している石州会六日市病院の重富雄哉先生が主導され、PTLS (Primary care Trauma Life Support) を島根県で初めて開催した。PTLSは、米国の救急初療室での外傷救命プロトコルを元に内容を日本向けにアレンジされたコースで、午前中は外傷初期評価のデモンストレーション等の講義、午後は①FACT②レントゲン③穿刺④FAST・プライマリーサーベイ・骨盤のブースに分かれ実技が行われた。総合診療医として第一線の医療現場で活躍する初期・後期研修医の先生方に貴重な機会となった。

【日 時】平成28年2月13日(土) 8:15~17:45

【場 所】島根大学医学部みらい棟4Fギャラクシー
島根大学医学部附属病院クリニカルスキルアップセンター

【参加者】24名

【講 師】JCHO東京高輪病院総合診療研修顧問 箕輪良行 氏
川崎市役所 清水彰一郎 氏
医療法人倚山会田岡病院 上山裕二 氏
船橋市立医療センター 救命救急センター 水嶋知也 氏
渋川市国民健康保険あかぎ診療所 菅野圭一 氏
石州会六日市病院 久長恒洋 氏
島根大学医学部附属病院麻酔科 日下あかり 氏
島根大学医学部附属病院産婦人科 加藤一朗 先生
浜田医療センター初期研修医 沖田総司 先生
浜田医療センター初期研修医 古志野海人 氏
出雲消防本部の方々
石州会六日市病院 重富雄哉 氏



6) しまね地域医療フォーラム

【日 時】平成27年5月9日(土) 14:00~17:00

【場 所】武志山荘(島根県出雲市)

【参加者】54名

【講 師】①未来医療研究機構代表理事、文部科学省科学技術・
学術政策研究所客員研究官 長谷川敏彦 氏
②島根県健康福祉部医療政策課
在宅医療推進スタッフ 杉谷 亮 氏





【内 容】①「どうなる？出雲のそして島根の医療！・・・ケア需要予測とケアサイクル論から考える未来医療」

②「地域医療構想ガイドラインを受けて」



4. 医学生・研修医等を対象とした地域医療研修等の受入体制の整備

1) 地域医療ワークショップ

【テーマ】地域医療に必要な連携について学ぶ

【日 時】平成27年5月23日（土） 14：00～17：00

【場 所】ホテルニューウェルシティ出雲

【参加者】21名

【講 師】石州会六日市病院 内科 重富雄哉 氏

出雲市消防本部 救急救命士 布野慶人 氏

島根大学医学部地域医療支援学講座 日高美佐恵

【内 容】1) 退院支援 ・症例検討 ・医師、看護師、訪問看護、ヘルパー、ケアマネ、リハビリ、患者、患者家族等としてロールプレイ ・ミニレクチャー
2) 救急と医療の連携・症例検討・救急隊員から見た救急医療 ・ミニレクチャー
3) 症例を通じて感じた現状の課題や自分自身の課題に関してラベルワーク



2) 総合診療ワークショップ

【テーマ】BPSで考える総合診療医の目線

【日 時】平成27年10月31日（土） 14：00～17：00

【場 所】島根大学医学部看護学科棟3階 第1実習室

【参加者】26名

【講 師】出雲家庭医療学センター 出雲市民病院 高橋賢史 氏



3 1年間のあゆみ

出雲家庭医療学センター 大曲診療所 藤原悠子 氏
 出雲家庭医療学センター 出雲市民病院 藤原和成 氏
 出雲家庭医療学センター 大曲診療所 松本翔子 氏
 出雲家庭医療学センター 出雲市民病院 松本賢治 氏
 島根大学総合医療学講座 大田市立病院 能美雅之 氏
 島根県立中央病院 総合診療科 上村祐介 氏
 筑波大学 総合診療グループ 久野遙加 氏
 大阪市立総合医療センター 感染症内科 来住知美 氏
 島根大学医学部総合医療学講座 木島庸貴 氏

【内 容】①総合診療医の仕事について紹介 ②ワークショップ（症例のグループディスカッション）
 ③meet the experts（島根県内外の総合診療医の話と質疑応答）



3) 学会等参加支援・助成

(1) 第6回日本プライマリ・ケア連合学会学術大会参加

【日 時】平成27年6月13日（土）・14日（日）

【場 所】つくば国際会議場（茨城県）

【参加者】医学生9名

(2) 第6回日本プライマリ・ケア連合学会学術大会参加報告会実施

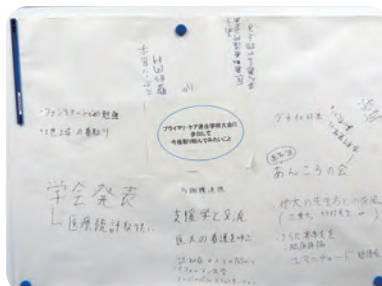
【日 時】平成27年6月26日（金）

【場 所】島根大学医学部みらい棟2F地域医療交流サロン

【参加者】医学生8名

【概 要】

学会に参加した学生がそれぞれ学んだ事を共有し、これから取り組みたいことを意見交換した。学会発表したい！夏のサークルの合宿での健康教育に生かしたい！等、皆それぞれに刺激を受けている様子が垣間見られた。





(3) 第26回日本プライマリ・ケア連合学会学生・研修医のための家庭医療学夏期セミナー

【日 時】平成27年8月1日～3日

【場 所】ニューウェルシティ湯河原（静岡県熱海市）

【参加者】医学科4年生1名

5. 医療機関・医師会・行政等と連携した総合診療医についての普及啓発

(1) レジナビでの普及啓発

- 1) しまね研修ナビ 平成27年6月6日 出雲市
- 2) 大阪レジナビ 平成27年7月5日 大阪市
- 3) しまね研修ナビ 平成28年2月12日 出雲市

(2) 学会等での普及啓発

第6回日本プライマリ・ケア連合学会学術大会 平成27年6月13日・14日

(3) 島根県総合診療医ポスター「20年後の長寿社会の医療を今ここ島根で学ぶ総合診療医」、後期研修プログラムパンフレットによるPR活動

(4) セミナー共催

隠岐離島発!! 総合診療セミナー「THE 整形内科」セミナー 平成27年9月20日 隠岐

(5) 大学と連携した取組み

- 1) 総合医療学カンファレンス（毎週火曜日 15：00～）
- 2) 総合診療医の育成プログラム「地方と都会の大学連携ライフイノベーション」（文部科学省「未来医療研究人材養成拠点形成事業」）3年目
- 3) 大学院コース等の支援
 - 博士課程：総合診療医指導者育成コース
 - 修士課程：地域包括ケア人材育成コース（医療経営重点）
 - そ の 他：①総合診療医・内科総合医育成コース
 - ②地域包括ケア人材育成コース（インセンティブ）
- 4) トワイライトセミナー（毎週火曜日18：30-20：00）
- 5) 卒後臨床研修センター主催 早朝セミナー（毎週水曜日7：30- 8：15）





6. 成果と課題

総合診療医育成ネットワークができてから5年が経過して、総合診療医育成ネットワークに参加する医療機関の後期研修プログラムに参加する若手医師も増えつつある。そこで今年度島根県の総合診療医の横のつながりを作る為初めて後期研修医の集いを開催し、互いの業務や地域についての理解を深めた。さらに若手医師FDなど自主的な取り組みも増えてきており、来年度も相互に連携できる仕組みづくりを促進する必要がある。

そして継続的に総合診療医を目指す若手医師を増やすためには、学生・初期研修医への働きかけも不可欠である。より多くの学生・研修医に効果的に働きかける取組み・支援を充実させる必要がある。また、レジナビ等での普及啓発にも力を入れたい。

総合診療医の育成を図るためには指導医の指導力向上は大変重要であり、今後も継続してその為の支援を続ける必要がある。現在、ブラッシュアップセミナーの開催、総合診療スキルアップセミナー等への指導医の参加支援を行っている。さらに今年度はプライマリ・ケア外傷蘇生コース（PTLS）も島根県で初めて開催し、スキルアップを図ることができた。今後もこれらの取り組みを充実させていきたい。

現在、2017年度開始の新専門医制度による総合診療専門医の育成プログラムを作成中であるが、必要に応じて作成支援を行うとともに、作成後はそれぞれのプログラムがより上手く連携を図れるように、世話人会などで調整していく必要がある。

これらの取り組みは、平成25年度より始動した、文部科学省「先進的医療イノベーション人材養成事業（未来医療研究人材養成拠点形成事業）」の1つ「地方と都会の大学連携ライフイノベーション～島根大学・神戸大学・兵庫医科大学連携総合医育成プロジェクト」と連携し、リサーチマインドを持った総合診療医の養成を目指している。今後もこの連携をさらに進めていきたい。



5

ワークライフバランス支援

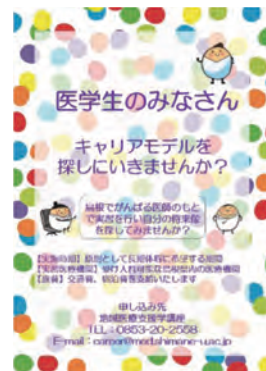
一般社団法人しまね地域医療支援センターより委託を受け、ワークライフバランス事業を実施した。



1. 学生教育

1) キャリア教育（男女共同参画講義）(P.9参照)

4年次を対象にしたキャリア教育を島根県医師会と共に主催している。



2) 医師生活密着型実習

地域医療支援学講座では、医学生が自分の将来のキャリアについて考えるきっかけを作ることを目的に、病院内実習だけでなく医師の生活面（例：保育園送迎等）も垣間見ることができる医師密着型の実習を支援している。先生方の受け入れのご協力により今年度は3名の女子学生が実習を行った。学生からは「将来自分がどういう生活をするのか知ることができず不安を感じていたが、その不安を払拭できた」との感想があり好評である。



2. 就労環境支援

1) 平成27年度 働きやすい病院づくり研修会 島根県医療従事者支援担当者研修会

【日 時】平成27年10月9日（金） 13:00~16:30

【場 所】ニューウェルシティ出雲 銀河の間
（出雲市塩冶有原町2-15-1）

【参加者】25名

【講 師】日本医業経営コンサルタント協会 東京都支部
理事 眞鍋 一 氏

日本医業経営コンサルタント協会

医業経営アドバイザー 谷 進二 氏

【講 演】「東京都医療勤務環境改善支援センターにおける
平成26年度の導入支援実績と平成27年度の事業計画」

【グループワーク】「ワークライフバランスを考える」
「職員定着度に関する課題と改善策」





3 1年間のあゆみ

2) 平成27年度 医師事務作業補助者研修会

【日 時】平成28年1月23日（土） 13：00～16：30

【場 所】ホテルニューウェルシティ出雲 銀河の間

【参加者】62名

【講 師】NPO法人 日本医師事務作業補助者研究会 理事長 矢口智子 氏

【内 容】講演、県内の取組み紹介（浜田医療センター、松江赤十字病院、飯南病院）



3) 相談窓口

平成26年8月から働き方に不安を抱える方の窓口（えんネット）を設置

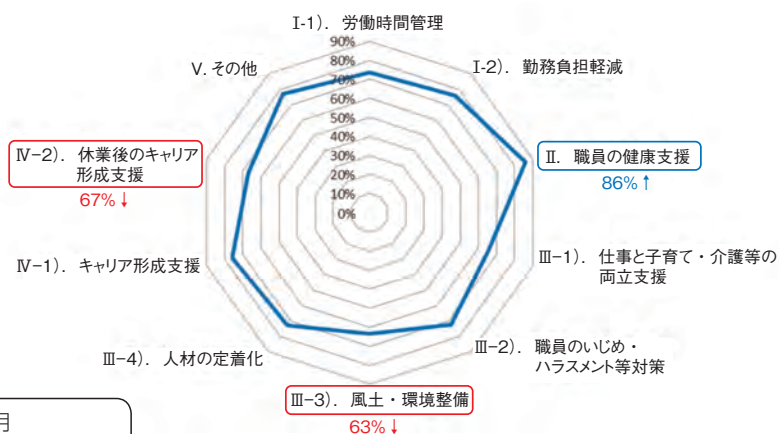
相談件数（平成27年度） 延べ18件（相談人数10名、復職1名）

4) 県内医療機関の勤務環境調査

平成26年10月1日に、医療機関の勤務環境改善に関する改正医療法の規定が施行され、各医療機関がPDCAサイクルにより計画的に勤務環境改善に取り組む仕組み（勤務環境改善マネジメントシステム）を導入すること等が組み込まれた。これを受けて平成27年9月、島根県内の病院51病院を対象に、勤務環境マネジメントシステムの「現状分析シート」を利用した勤務環境に関する調査を行った。現在の各施設の現状を把握し、その結果を県内で共有し検討することで、自施設の勤務環境改善に役立てていただくことを目的とした。

当結果については、上述の島根県医療従事者支援担当者研修会にて医療機関が特定されない形で報告を行った。島根県23病院の平均値は下記の通りであった。

【島根県23病院の平均値】



調査期間 平成27年9月
調査対象 島根県内の病院 51病院
調査票回収率45% 23/51病院



3. 研究・発表

1) 第47回日本医学教育学会大会 参加・ポスター発表

【テーマ】島根大学医学部でのキャリア教育の試み
【日 時】平成27年7月24日（金）・25日（土）
【場 所】朱鷺メッセ 新潟コンベンションセンター
【発表者】日高美佐恵（地域医療支援学講座）

2) しまね大交流会&キックオフセミナー 参加・ポスター発表

【日 時】平成27年12月12日（土）
【場 所】くにびきメッセ（松江市）
【発表者】日高美佐恵（地域医療支援学講座）
【ポスター】「えんネット」の取り組み紹介

4. 意見交換

1) 島根大学医学部女性医師座談会

【日 時】平成27年11月20日（金）
【場 所】島根大学医学部みらい棟1Fみらいラウンジ
【参加者】5名



2) 島根大学医学部他 女性医師座談会

【日 時】平成28年3月3日（木）
【場 所】島根大学医学部みらい棟1Fみらいラウンジ
【参加者】6名



3) さぼっとcafé（島根大学男女共同参画推進室共催）

【日 時】平成27年12月22日（月）
【場 所】島根大学医学部みらい棟2F共通カンファレンス室
【参加者】24名



4) 島根大学医学部附属病院ワークライフバランス支援室会議

【日 時】1回/月



5. 託児付セミナー支援

平成27年度 7回

- 地域医療ワークショップ

【日 時】平成27年5月23日（土）

【場 所】ホテルニューウェルシティ出雲

- ブラッシュアップ講習会 in 浜田

【日 時】平成27年7月11日（土）

【場 所】浜田医療センター

- 第3回全国シミュレーションスペシャリストセミナー

【日 時】平成27年10月10日（土）

【場 所】島根大学医学部附属病院クリニカルスキルアップセンター

- ブラッシュアップ講習会 in 出雲

【日 時】平成27年11月14日（土）

【場 所】島根大学医学部国際交流ラウンジ

- 医師事務作業補助者研修会

【日 時】平成28年1月23日（土）

【場 所】ホテルニューウェルシティ出雲

- 精神科医キャリアアップ支援ネットワーク研修会

【日 時】平成28年1月30日（土）

【場 所】松江テルサ

- 第1回島根PTLS（Primary care Trauma Life Support）コース

【日 時】平成28年2月13日（土）

【場 所】島根大学医学部附属病院みらい棟ギャラクシー、クリニカルスキルアップセンター





6. 広報・ワークライフバランス普及活動

1) えんねっとマガジンの発行（年間1回）



2) えんねっとHP更新（随時）



3) メディア

【日 時】平成27年11月4日（水） 21：54～

【内 容】TSK山陰中央テレビ「情報広場もっと×もっとしまね」～島根の医師支援えんねっと～



6 地域医療支援等

地域の医療機関や行政等の相談を受け個別にアドバイスをし、また地域医療を守る住民活動の取組み支援を行っている。

1) 地域住民への支援

地域医療を守ろうと活動している住民団体が個々の地域の活動に留まらず、相互に交流をはかり、ブラッシュアップするためのネットワークの構築を行った。

■平成27年度島根地域医療を守り育てる住民活動ワークショップ

【日 時】平成27年11月21日（土） 13：00～17：30

【場 所】ニューウェルシティ出雲 牡丹（出雲市内）

【参加者】35名

【主 催】島根大学医学部地域医療支援学講座、島根県健康福祉部医療政策課、島根県地域医療支援コーディネータ連絡会、一般社団法人しまね地域医療支援センター

【内 容】

1. ポスター発表

- | | |
|-------------------|---------|
| ① がんばれ雲南病院・市民の会 | 矢壁 敏宏 氏 |
| ② 雲南地域医療を考える会 | 岩間 修平 氏 |
| ③ 飯南町の医療を守り支援する会 | 五明田祥司 氏 |
| ④ 公立邑智病院を守る会 | 尾崎 順和 氏 |
| ⑤ 浜田の地域医療を守る会 | 猪木迫幸子 氏 |
| ⑥ 益田の医療を守る市民の会 | 森田 泰精 氏 |
| ⑦ 離島・隠岐の医療を考える会 | 斎藤 英典 氏 |
| ⑧ 大田市地域医療支援対策協議会 | 藤井 好文 氏 |
| ⑨ 隠岐病院絵画ボランティアあかり | 脇 立夫 氏 |

2. グループワーク

「自分が抱えている課題、発表を聞いた中から課題を明確にし、今後の地域での活動のあり方について考える」

3. 発表





2) 個別の地域医療を支える機関への支援

■松江市立宍道中学校生来訪

- 【日 時】平成27年8月11日（火）
【場 所】地域医療支援学講座
【参加者】松江市立宍道中学校3年生2名
【対 応】地域医療支援学講座 吉岡みち子



■島根県立島根中央高校、島根県立三刀屋高校生医学部来訪

- 【日 時】平成27年11月17日（火）
【場 所】島根大学医学部附属病院内
【参加者】島根中央2年、三刀屋2年 看護学科志望40名
【対 応】地域医療支援学講座 谷口栄作、吉岡みち子

■和歌山県議員来訪

- 【日 時】平成27年11月30日（月）
【場 所】島根大学医学部みらい棟1Fみらいラウンジ
【参加者】和歌山県議員2名
【対 応】地域医療支援学講座 谷口栄作

■松江市立宍道小学校「キャリア教育」講演

- 【日 時】平成28年2月16日（火）
【場 所】松江市立宍道小学校
【参加者】松江市立宍道小学校6年生49名
【対 応】地域医療支援学講座 吉岡みち子

3) 平成27年度中四国地域医療フォーラム（in鳥取）参加

中四国の地域医療関連寄附講座等、県、地域医療支援センター、各大学からの学生が一堂に会し地域枠学生等の学部教育、キャリア支援を考えるフォーラムを、各県持ちまわりで行っている。第6回目の今年は鳥取で開催され、深い議論が行われた。

- 【テーマ】2035年の未来をみつめた地域医療人材育成
【日 時】平成28年2月27日（土） 9:00～15:00
【場 所】米子全日空ホテル
【参加者】中四国各県の地域医療に関わる大学関係者、県行政担当者、地域医療支援センター職員、地域枠学生等。本学からは当講座教員3名と地域枠学生2名参加。





4) しまね公衆衛生の会「Ship」

島根県内の公衆衛生研究、公衆衛生活動のレベルの向上、若手公衆衛生関係者育成を目的に、しまね公衆衛生の会「Ship」(Shimane Public Health Meeting)を平成27年10月に立ち上げた。「島根の公衆衛生の母港となって、それぞれが色々な立場で船出しても、原点としてもどりつく場とする」という意味を込めて命名した。島根大学医学部環境保健医学講座・地域医療支援学講座、島根県立大学看護学部看護学科の研究者及び大学院生等、また公衆衛生に強い興味を持ち学習意欲の高い若手保健医療福祉従事者が参加し、基本的に隔月で1回程度、島根大学医学部基礎研究棟8F環境保健医学講座カンファレンスルームにて公衆衛生に関する研究会を開催している。

■第1回Ship

【日 時】平成27年10月17日(土)

【参加者】13名

【内 容】1) 本研究会立上げの目的と今後の方向性(島根大学医学部地域医療支援学講座 谷口栄作)
2) 公衆衛生医の道を目指して(島根大学医学部環境保健医学講座 神田秀幸)

■第2回Ship

【日 時】平成27年12月12日(土)

【参加者】9名

【内 容】1) ヘルスプロモーションと町作り(出雲保健所所長 中川昭生氏)
2) 島根県における科学的栄養施策推進に向けて～BDHQの導入～
(島根大学医学部地域医療支援学講座 中畑典子)

■第3回Ship

【日 時】平成28年2月20日(土)

【参加者】19名

【内 容】1) 地域診断とは(島根県立大学 小田氏)
2) 出雲地区診断シートの現状と課題(出雲市保健師 新田氏)
3) 雲南市の地域診断(雲南市保健師 武田氏)
4) 大東町幡谷地区「アルコールと心の健康」の取組み(大東地区保健師 土屋氏、村尾氏)
～学生実習報告～
1) 島根大学6年生 柏プロジェクト：大都市近郊における在宅医療の成功事例についての報告
2) 横浜市立大学4年生 高血圧とストレス解消法
3) 横浜市立大学4年生 グーグルプラスを用いた糖尿病コミュニティにおける投稿内容の分析
4) 横浜市立大学4年生 統合失調症に関する新聞記事とそれに対する読者の反応に関する研究
5) 横浜市立大学4年生 yahooの知恵袋へ投稿された乳がんに関する疑問質問内容の解析～患者はどんな情報を得ようとしているのか？



7

地域医療支援コーディネータ等への支援

島根県地域医療支援コーディネータは島根大学医学部修士課程「地域医療支援コーディネータ」養成コースを修了し、島根県知事から認定書を交付された医療従事者である。島根県医学部と島根県が連携して、医師不足地域への医師定着を促進するために、関係機関と連携しながら支援する目的で活動している彼らと養成コース在籍者の連絡会を開催している。また、地域医療支援コーディネータ以外にも同様な機能を果たしている、また果たしたいという人がいるので、それらの方々の活動・研究等を目的に研究会を開催している。

1) 地域医療支援研究会

■第1回地域医療支援研究会（公開セミナー）

【テーマ】ハッカソンと保健医療介護への応用可能性

【日 時】平成27年10月27日（火） 14：00～16：00

【場 所】島根大学 医学部 みらい棟 2F地域医療交流サロン

【講 師】Filament代表

ハッカソンプロデューサー兼オープンイノベーション・
アドバイザー 角 勝氏

【参加者】14名



■第2回地域医療支援研究会

【テーマ】SPSSでできること

【日 時】平成28年1月5日（火） 13：30～16：30

【場 所】みらい棟 2F地域医療交流サロン

【講 師】島根県保健環境科学研究所 所長 大城 等氏

【参加者】4名

■第3回地域医療支援研究会

【テーマ】統計を学ぼう

【日 時】平成28年2月2日（火）・3日（水） 9：00～17：00

【場 所】みらい棟 2F地域医療交流サロン

【講 師】杉本解析サービス 杉本典夫氏

【参加者】8名



■第4回地域医療支援研究会

【テーマ】質的研究・プロトコル・SCATワークショップ

【日 時】平成28年3月19日（土） 9：00～17：00・20日（日） 8：30～19：00

【場 所】みらい棟 2F共通カンファレンス I

【講 師】名古屋大学 大学院教育発達科学研究科 教授 大谷 尚氏

【参加者】9名

2) 地域医療支援コーディネータの学会発表支援

■第55回全国国保地域医療学会参加

【日 時】平成27年10月2日（金）・3日（土）

【場 所】大宮ソニックシティ・パレスホテル大宮（埼玉）

【発表者】野島慶明氏（地域医療支援コーディネータ・隠岐広域連合立隠岐病院看護師）

【演 題】病院ボランティア活動の継続のために何が必要か



8 ホームページ・広報紙等による情報発信

1) ホームページ

今年度はセミナー告知等の「お知らせ」を24回、開催報告等の「実施記録」を37回更新した。また、地域医療実習募集PR・実習参加学生の感想の掲載や地域医療交流サロンに関するお知らせ等の更新も行っている。今後も継続して適宣的確な情報発信に努めたい。



2) Facebookによる情報発信

今年度は当講座Facebookを約170回更新し、平成27年3月末には268名であったフォロー数が、平成28年3月末には375に増加した。





3) 地域医療支援学レター（年4回発行）

今年度もニュースレター「We love ちいき」を4回発行し、紙ベースでのPR活動も行っている。島根大学地域枠等推薦入学ならびに奨学金受給の全学生・県内保健所ならびに医療機関・全国の大学の地域医療関連講座等に配布している。



【論文】

中畑典子	Validity of the Food Frequency Questionnaire in a population with high alcohol consumption in Japan.	鹿児島大学
中畑典子	A variant of the CLOCK gene and related haplotypes are associated with the prevalence of type 2 diabetes in the Japanese population. J Diabetes.	J-MICC Study Group
中畑典子	Positive association of plasma homocysteine with cardio-ankle vascular index in a prospective study of Japanese men from the general population.	鹿児島大学

【学会等発表】

佐藤優子、日高美佐恵、佐藤誠、谷口栄作、北條宣政、飯島慶郎、宮本雄一、阿部顕治、	女子医学生が女性医師の1日に密着！～生活密着型実習は将来の不安を軽減する～	第6回日本プライマリ・ケア連合学会学術大会ポスター発表 茨城 平成27年6月
藤原和成、木島庸貴、高橋賢史、藤原悠子、谷口栄作	島根県若手ジェネラリストの集いの取り組み第一報	第6回日本プライマリ・ケア連合学会学術大会ポスター発表 茨城 平成27年6月
木島庸貴、日高美佐恵、高橋賢史、藤原和成、藤原悠子、谷口栄作、石橋 豊	島根県若手ジェネラリストの集いの取り組み第二報	第6回日本プライマリ・ケア連合学会学術大会ポスター発表 茨城 平成27年6月
中畑典子 (鹿児島大学との共同)	地域別の閉経前後におけるCAVIを規定する要因：神戸研究・J-MICC Study 鹿児島サイト	第51回日本循環器予防学会 大阪 平成27年6月
谷口栄作、日高美佐恵、中畑典子、吉岡みち子	地域医療への関心を高めるためのセミナーの試み	第47回日本医学教育学会大会 新潟 平成27年7月
吉岡みち子、日高美佐恵、中畑典子、谷口栄作	入学時点での地域枠等入学生への地域医療へのモチベーション向上のための働きかけ	第47回日本医学教育学会大会 新潟 平成27年7月
日高美佐恵、中畑典子、吉岡みち子、谷口栄作	島根大学医学部でのキャリア教育の試み	第47回日本医学教育学会大会 新潟 平成27年7月
中畑典子 (鹿児島大学との共同)	都市部と離島におけるcardio-ankle vascular index (CAVI) 値および動脈硬化性疾患の危険因子の比較検討	第47回日本動脈硬化学会 宮城 平成27年7月
中畑典子 (鹿児島大学との共同)	鹿児島県における尿中ナトリウム及びカリウム排泄量と食品摂取の地域差に関する研究	第62回日本栄養改善学会 福岡 平成27年9月
野島慶明、中畑典子、吉岡みち子、日高美佐恵、谷口栄作	病院ボランティア活動を継続するための要因に何が必要か～隠岐病院ボランティアへの調査から～	第55回全国国保地域医療学会 埼玉 平成27年10月
杉谷 亮、谷口栄作、吉岡みち子、中畑典子、日高美佐恵	島根における入退院時の情報共有に関する調査（第1報）	第74回日本公衆衛生学会 長崎 平成27年11月
吉岡みち子、杉谷 亮、谷口栄作、中畑典子、日高美佐恵	入退院時の患者情報共有に関する調査（第2報）～医療機関の職員の意識から～	第74回日本公衆衛生学会 長崎 平成27年11月
谷口栄作、杉谷 亮、吉岡みち子、日高美佐恵、中畑典子、	入退院時における病院と在宅サービス事業者の患者情報共有に関する調査（第3報）	第74回日本公衆衛生学会 長崎 平成27年11月



中畑典子、日高美佐恵、津村秀樹、吉岡みち子、谷口栄作	中学校職員の喫煙有無と「青少年の喫煙に対する意識」「タバコの知識」の比較	第74回日本公衆衛生学会 長崎 平成27年11月
中畑典子、谷口栄作	あまみ島嶼地域における12日間食事調査における個人内および個人間変動に関する比較研究、BMI及び飲酒習慣と脂肪肝リスクに関する横断的研究	第26回日本疫学会 鳥取 平成28年1月

【講演会・シンポジウム等】

谷口栄作	地域医療における医師のキャリア形成	熊本県地域医療支援機構講演会 講師 熊本 平成27年11月
谷口栄作	キャリア形成と地域医療～島根大学の取り組み～	富山大学寄附講座6周年講演会 講師 富山 平成27年11月
谷口栄作	地方におけるリサーチマインドを持った総合診療医の養成	「地方と都会の大学連携ライフイノベーション」シンポジウム シンポジスト 松江市 平成27年10月
谷口栄作	本気で考えよう！今の益田の医療に必要なこと...	地域医療フォーラム パネリスト 益田市 平成27年11月
中畑典子	健康づくりは家での食事から～おいしく、楽しく、笑顔を作る～糖尿病予防のために	クアハウス湖陵健康教室 健康フェスタ講師 島根 平成27年6月
吉岡みち子	医療の現場のお話	松江市立宍道小学校キャリア教育 講師 島根 平成28年2月

【出展】

しまね研修ナビ ポスター展示	島根大学医学部看護学科棟	平成27年6月
しまね大交流会 「えんねっと」の取り組み紹介	松江くにびきメッセ	平成27年12月

【学会等参加】

第29回日本医学会総会	京都	平成27年4月
World Health Summit	京都	平成27年4月
第17回日本在宅医学会もりおか大会	岩手	平成27年4月
第3回日本在宅栄養管理学会学術集会	東京	平成27年6月
平成27年度日本看護協会通常総会	兵庫	平成27年6月
第11回日本病院総合医診療医学会学術総会	奈良	平成27年9月
トランスプロフェッショナル・リテラシー科研総合シンポジウム	大阪	平成27年9月
第44回日本総合健診医学会	東京	平成28年1月
第8回全国シンポジウム	東京	平成28年2月
メディカルジャパン2016	大阪	平成28年2月



5

写真で見る 1 年間

4月 新入生説明会



4月 ランチョンセミナー（結城先生）



4月 地域医療セミナー（飯島先生）



5月 医学概論 I



5月 地域医療セミナー（長谷川先生）





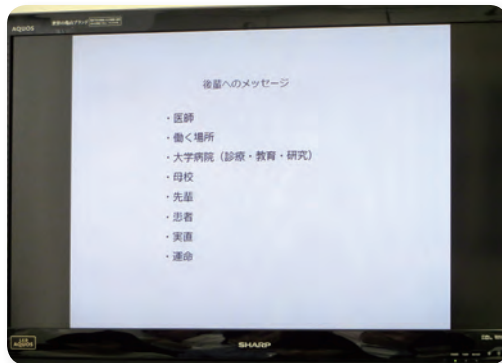
5月 しまね地域医療フォーラム（長谷川先生・杉谷先生）



地域医療支援学講座

写真で見る1年間

5月 ランチョンセミナー（金崎先生）



5月 地域医療ワークショップ（重富先生、布野先生）





5 写真で見る1年間

5月 地域医療ワークショップ



5月 総合診療医育成ネットワーク世話人会



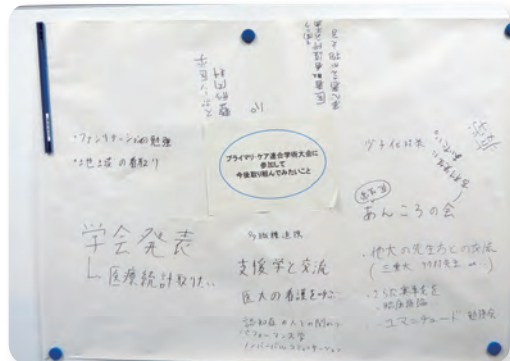
6月 地域医療セミナー（平原先生）



6月 ランチョンセミナー（山内先生）



6月 プライマリ・ケア学会報告会





6月 若手総合診療医FD



7月 大田市交流会



7月 地域医療セミナー（齋藤先生）



7月 ランチョンセミナー（松岡先生）



7月 ブラッシュアップ講習会 in 浜田（尾原先生）



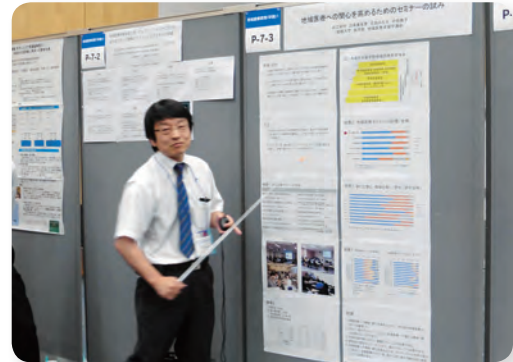


5 写真で見る1年間

7月 医学教育学会発表（古岡）



7月 医学教育学会発表（谷口）



8月 穴道中学校3年生来訪



8月 自治医科大学との交流会



8月 夏季地域医療実習報告会



9月 地域医療セミナー（佐藤先生）





9月 臨床実習オリエンテーション



9月 地域枠等全学年集会



9月 地域枠等全学年集会



9月 講座配属オリエンテーション (吉岡)



9月 講座配属オリエンテーション (谷口)



9月 吉賀町交流会



10月 講座配属ほっとサロン





5 写真で見る1年間

10月 早期体験実習報告会



10月 医学概論Ⅱ



10月 ランチョンセミナー（荒木先生）



10月 第1回地域医療研究会



10月 医療従事者支援担当者会議





10月 講座配属（出雲保健所）



10月 総合医療ワークショップ



11月 ブラッシュアップ講習会 in 出雲



11月 ブラッシュアップ講習会 in 出雲（北村先生）



11月 ブラッシュアップ講習会 in 出雲（託児写真）



11月 雲南市交流会



11月 講座配属（ほっとサロン）





5 写真で見る1年間

11月 ランチョンセミナー（中川先生）



11月 住民活動ワークショップ



11月 地域医療セミナー（藤岡先生）





12月 地域医療セミナー（田中氏）



12月 ランチョンセミナー（三島先生・シャディア先生）



12月 さぼっとカフェ



1月 ランチョンセミナー（津端先生）





5 写真で見る1年間

1月 地域医療セミナー（中川先生・辻先生）



1月 医師事務作業補助者研修会



2月 地域医療セミナー（吉村先生）



2月 ランチョンセミナー（百留先生）





2月 PTLS



地域医療支援学講座

2月 中四国地域医療フォーラム



写真で見る1年間

春季医療実習報告会



3月 キャリア教育





5 写真で見る1年間

3月 春季地域医療実習（雲南）



3月 春季地域医療実習（出雲）



3月 春季地域医療実習（浜田）



3月 春季地域医療実習報告会



3月 SCAT



資料編

4月 平成27年度第1回地域医療セミナー



総合診療医という生き方

講師：浜田市国民健康保険診療所連合体
大麻診療所
所長 飯島慶郎 氏

4診療所に5名の医師がいる浜田市国民健康保険診療所群の一つ、大麻診療所で地域医療に携わっておられます。背景人口約800人、養護老人ホームが隣接している環境下での地域医療の楽しさを聞いてみましょう！
心療内科に精通しているという強みも持ちの先生です。

日時：平成27年4月20日（月）18:00～19:30

場所：島根大学医学部みらい棟2F共通カンファレンス I

募集人数：50名（お弁当を準備しています。）

申込み先：メール：career@med.shimane-u.ac.jp 電話：0853-20-2558

申込み締切：平成27年4月15日（水）



島根大学医学部地域医療支援学講座 日高・芦田

※熱い思いを講演いただきました。

人口問題に詳しい長谷川先生に聞いてみましょう。



島根大学医学部地域医療支援学講座 日高・岡田

バックキャストिंगが必要

ステップ1: 2060年のあるべき社会を想像する

未来は断絶的

ステップ2: 2040年のあるべき社会を想像する

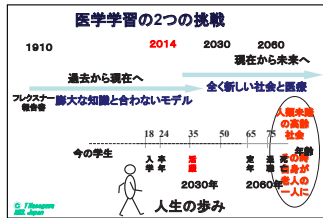
フォーキャストは危険!

ステップ3: あるべき社会に向けて一歩ずつ進む

2010 2030 2060

© TBS

想像絶つ21世紀型未来社会

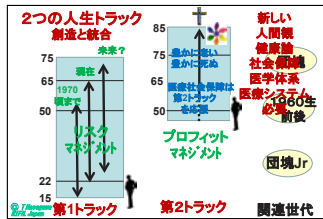
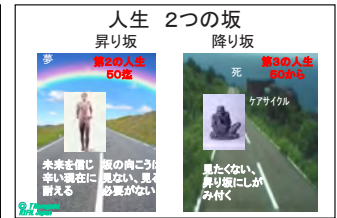


大転換する人生

長寿革命で
人生第二トラック

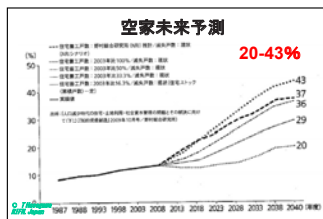
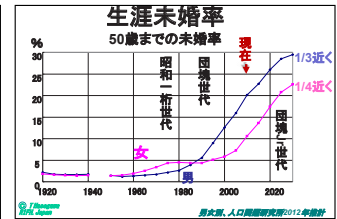
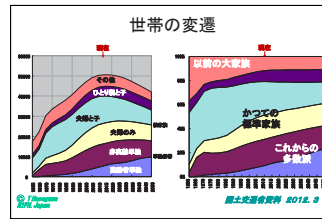
人生の時間 実は

就職中
45年x250日x9時間=10万時間
20-65歳働く労働時間9時間と仮定
定年後 家で過ごす！ 同じ
20年x365日x15時間=10万時間
85歳まで生きる非睡眠時間15時間と仮定



大転換する家族

結婚革命で
まちが家族

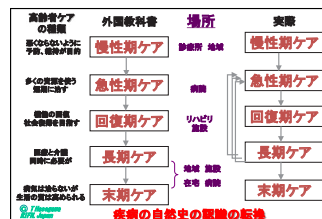


第3部
医療

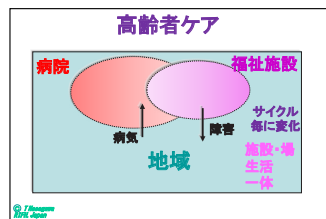
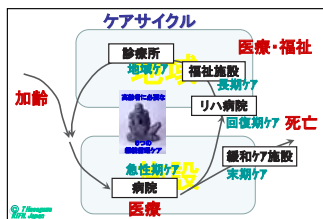
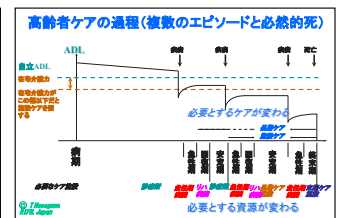
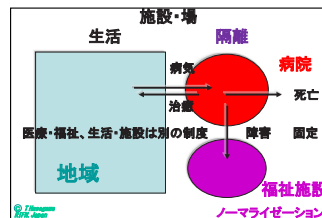
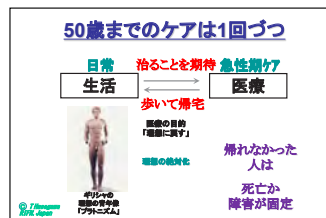
大転換するケア

共に老いるアジア
日本の過去から学ぶ

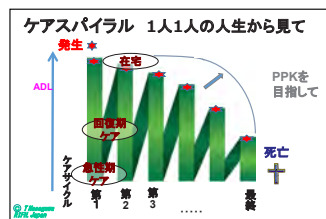
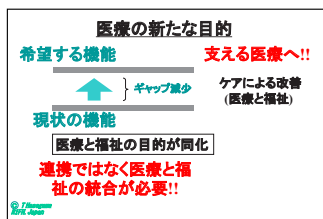
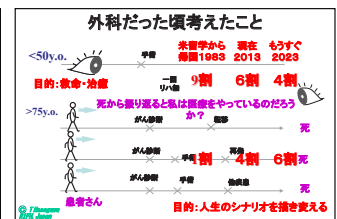
エピソード
から
ケアサイクル
へ



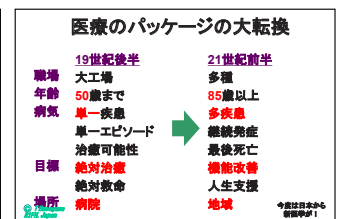
単発外因疾患
から
複数継続疾患
へ



治す医療
から
支える医療
へ

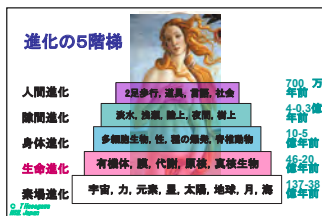
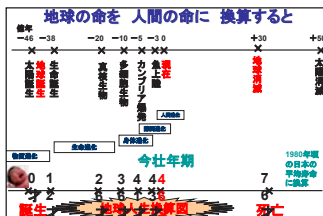


19世紀の医療
から
21世紀の医療
へ



壊れた機械
から
環境への不適用
へ



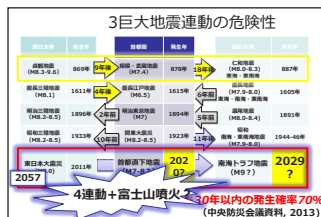


第6部 総括

大転換する時代 共に老いるアジア 日本の過去から学ぶ



バッドニュース 生みの苦しみ

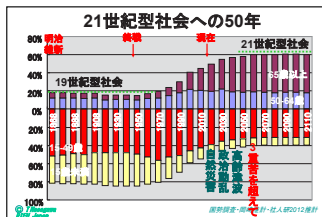


被害規模予測

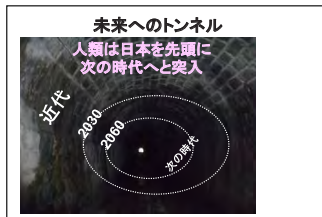
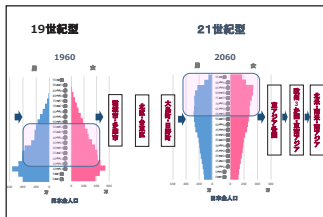
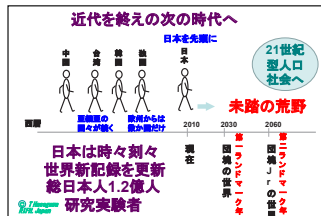
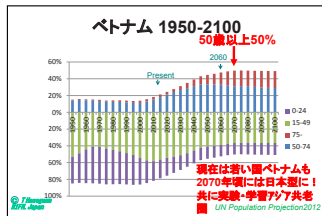
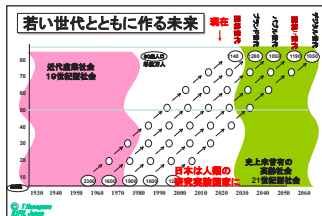
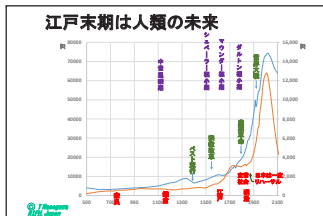
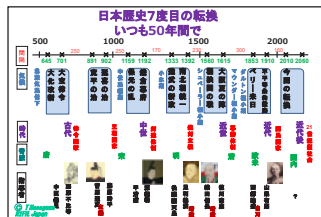
	死者	被害額
南海トラフ地震	32万人	220兆円超
首都直下地震	2万人 (15万人)	100兆円弱 (300兆円)

中央防災会議予測、2013
(定本、総研調査部、定本)

最大 死者数：47万人超
経済被害：520兆円超



グッドニュース 豊かな歴史資源



6月 平成27年度第3回地域医療セミナー



地域包括ケア時代の在宅医療

講師：東京ふれあい医療生活協同組合梶原診療所
在宅総合ケアセンター長/病棟医長
平原 佐斗司 氏

平原先生には毎年地域医療セミナーでご講演していただき、とても好評です！

東京の北区という都市部における地域医療・在宅医療で症例を交えながら、患者・家族背景を見ること重要性等医師として必要な視点等教えていただきます。島根との違いはあるでしょうか？

日時：平成27年6月3日(水) 18:00～19:30

場所：島根大学医学部みらい棟4Fギャラクシー

募集人数：50名(お弁当を準備しています。)

申込み先：メール：career@med.shimane-u.ac.jp 電話：0853-20-2558

申込み締切：平成27年6月1日(月)



島根大学医学部地域医療支援学講座 日高・芦田

島根大学地域医療学講座 2015. 6. 3

地域包括ケア時代の在宅医療

東京ふれあい医療生活協同組合
梶原診療所 在宅サポートセンター
平原 佐斗司

長寿を表す言葉

- ◆60歳 還暦(かんれき)、華甲(かこう)
- ◆70歳 古希(こき)
- ◆77歳 喜寿(きじゅ)
- ◆80歳 傘寿(さんじゅ)
- ◆88歳 米寿(べいじゅ)
- ◆90歳 卒寿(そじゅ)
- ◆99歳 白寿(はくじゅ)
- ◆100歳 百寿(ひゃくじゅ・ももじゅ)

百歳以上(センチナリアン)
日本に5万4397人

◆108歳 萱寿(ちやじゅ)
◆111歳 皇寿(こうじゅ)
◆112歳 珍寿(ちんじゅ)
◆118歳 天寿(てんじゅ)
◆120歳 本還暦(ほんかんれき)

本村次郎右衛門
116歳54日(13年6月)
(男性最長寿)
ジャンヌ・カルマン
122歳164日

世界の平均寿命

日本人の平均寿命
女性86.41歳(13位)、男性79.54歳(5位)

ウェキペディアより

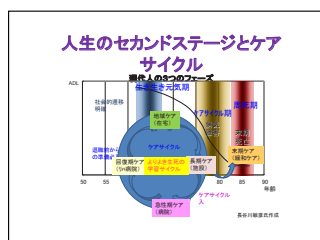
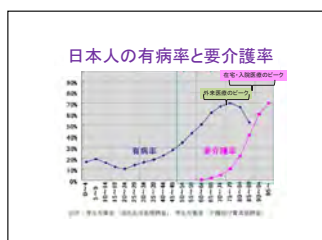
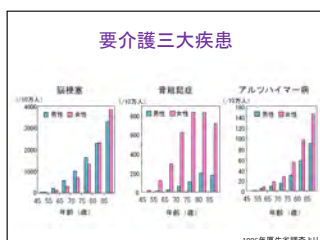
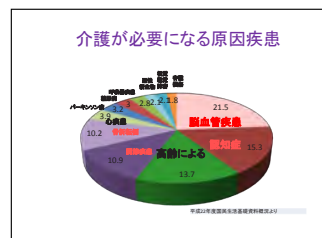
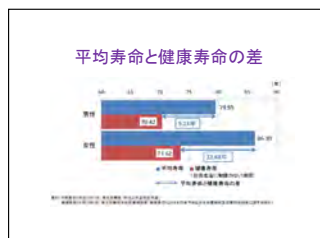
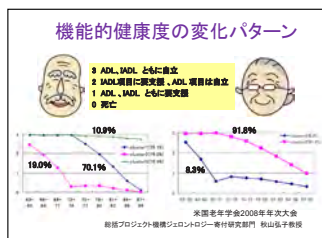
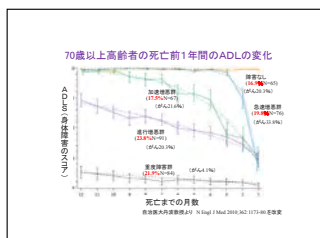
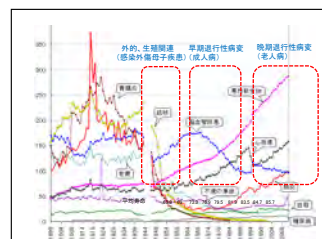
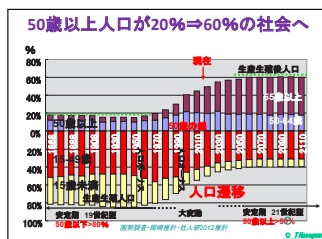
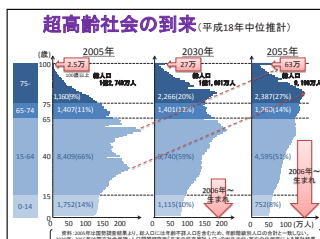
日本人の寿命と死亡場所

昭和20年代

死亡場所：自宅82.8%、病院17.1% (昭和20年)
平均寿命 男/女：61.5/65.6

昭和30年代

死亡場所：自宅70.7%、病院29.1% (昭和30年)
平均寿命 男/女：70.5/75.9



私たちのチャレンジ

包括的地域リハビリテーション
の展開

包括的リハビリテーション

1) に基づいた多様なプログラム
(看護士/介護士/入居、急性期)
3) 月に3回の外来（看護）

① 訪問リハ

② 入院リハ

③ 外来リハ

4週間プログラム
多様な急性期と在宅へ

運動学、呼吸器、脳卒中
2週間に1回診察

在宅生活を支援する包括的リハビリテーション

理学療法士ら、作業療法士ら、言語療法士ら

入院リハビリテーション

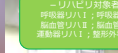


理学療法士

呼吸リハビリプログラム
60分

ーリハビリ対象者ー

- 呼吸器リハⅠ：呼吸器病後
- 脳血管リハⅠ：脳血管障害
- 運動器リハⅠ：整形外科疾患



プログラム
エルゴメーター

プログラム
下肢筋力訓練

訪問リハビリの目標シート

心身機能・身体構造

活動

参加

心身機能・身体構造

活動

参加

包括的認知症ケアシステムの構築

チームアプローチが最大のアウトカムを生み出す

ミシガン大学老年学センター（ナーシング・クリニック）
1997年開設

医師、看護師、ソーシャル・ワーカーが
チームで患者と家族を支援
（初めに時間がかかる）

医師の診察の間、ソーシャル・ワーカー
が家族と直接する。

それぞれの診察の直後に、医師、看護師、
ソーシャル・ワーカーがチームカンファレンス
を行い方針を決定する

**高齢者ケア外来の開設
（1999年～）**

医師2、看護師3、SW2、臨床心理士2

認知症のステージアプローチ
認知症のステージから必要な認知症専門施設（機関・モデル）

発症・受診 軽度 中度 重症・延命

① 早期診断 ② 適切なフォローアップ ③ 本人と家族の
外史（高齢者ケア外史） 訪問診療

主治医機関（医師）

支援施設

心療内科
認知症ケア
通所系サービス
グループ・小規模複合型施設、入所施設
専門医療機関
急性期医療



オレンジほっとクリニック

国産の良質な産後ケアを専門に

1F オレンジほっとクリニック

平塚市南宮原用戸ハビリ
エリア D A B C

1. 予約制
2. 夜間診療
3. 産後ケア専門
4. 7PM~24h
5. 産後ケア
E 産後

国産の方にご活用いただける
産後ケア支援システム

○ 高齢者ケア外来
(産後ケア外来
のケアアクト)

○ 介護福祉支援
ケアアクトによる
介護ケア

○ 赤ちゃんケア外来
(産後ケア外来
のケアアクト)

○ 産後ケア支援
ケアアクトによる
産後ケア

アフターケア情報

- あんしんセンター「1」医
行（行政・医療との連携）
- 産後ケアの方への初期支援
○ 産後ケアの経過観察等
のフォローアップ



認知機能の専門的リハビリテーション

リハビリってクリニックで専門的リハビリ

L I F E P A C E

- ・ 軽度認知症や軽度認知障害という診断を受けた方と商家族が、これらが**認知症**とともに**生きていく**という**家族の支度**をお手伝いする**ディケア**です。
- ・ 医師や看護士、ソーシャルワーカー、臨床心理士等の専門職が、**人生（ライフ）**を自分たちの**ベース**で考えたものお手伝いもさせていただきます。
- ・ **ライフ・ベース**という考え方は、私たちが大抵にしている**8つの活動**の柱（**ライフ・ベース**）、**自立・自律**、**家族支援**、**教育支援**、**ピアグループ**、**心理療育**、**アクティビティ**、**地域活動**、**運動**）を表しています。

This is me

- わたしの名前(呼ばれて親しみやすい名前)
- 現在、住んでいるところ
- 習い事/私を最もよく知る人
- みんなに知って欲しいこと
- わたしの得意なこと
- わたんにたいと大事なこと
- これまでのわたしの人生
- わたしの親を大切に
- わたしの将来について、心配すること
- わたんはこれで行かれます
- 自分の未来、目の未来
- 夢はなにをやるのかの手段
- 移動の手段
- 睡眠の状況
- 食事はどのようにして
- 食事で食事の手段
- わたんが飲んでいる薬

「わたしノート」は、わたし(利用
者さん)または、わたしを知る
人によって作ります。あなたの未来
は、可能な限りわたし(利用者)

[illegible]

私たちのチャレンジ

ホームホスピスを目指した
すまい地域づくりの会のとりくみ

サロン、ボランティア講座

[illegible][illegible]

都市型すまいモデル

日常生活圏に公設性宅が

かあさんの家



昼間二人、夜間一人のヘルパー体制。外部から24時間体制の巡回看護提供



NPOの拠点
ケアサロの拠点



認知症の母を家に帰したいと希望する家族に、近所暮らしを促し、家でケアと提供することを目指す。その方針を「ケアサロ」にて、年々増えるご家族に伝えてきたが、その後も増えるご家族に



サロン かあさんの茶の間

サロン かあさんの茶の間の
オープンセミナー

ある日の茶の間

ボランティア講座とボランティアカフェ

講座生と生員が1回集まるボランティアカフェ

ボランティア講座
3時間 5回シリーズ

送迎ボランティア

[illegible]

地域包括ケアシステム構築への
チャレンジ II

チーム北の取り組み

某区區民の死亡場所
 N=3435
 平成22年
 N=555

左のグラフ: 某区區民の死亡場所 (N=3435)
 右のグラフ: 某区65歳以上の区民の死亡場所 (N=555)

死亡場所	割合 (%)
病棟 (病内)	48.5%
診療所 (病外)	0.30%
老人保健施設 (病外)	0.5%
老人ホーム (病外)	3.70%
その他 (病外)	46.0%
病棟 (病内)	27.24%
診療所 (病外)	0.4%
老人ホーム (病外)	0.4%
その他 (病外)	71.96%
病棟 (病内)	16.10%
診療所 (病外)	0.4%
老人ホーム (病外)	0.4%
その他 (病外)	83.1%
監病棟 (病内)	3.8%
監病棟 (病外)	66%
その他 (病外)	30.2%

50.6%が区外で死亡。 77.4%は看護職員、4.8%施設、16.1%自宅や死亡

[illegible]

あんしんセンターサポート医と
在宅療養支援窓口

北区・あんしんセンターサポート医モデル

人口20万人の老老型地域に9ヶ、最も市の
地域性・特色と振興会等の協力を活用
(在宅医療支援診療所と訪問診療サポート
センターが連携する体制を整える。

地域医療で発生したニーズとは、通常の
サポート一環に留まり、サポート一環
は、必要に応じて専門機関へ、各
都道府県に連携して問題解決を図る。

医師事務所

医師会指定
在宅医療支援診療所

● 連携型地域包括支援センター
● 連携型地域包括支援センター

将来的に在宅医療のさらなる
普及を支援する。

あんしんセンターサポート医への相談

2012年6月～11月

訪問 17例 (8/9) 78.1歳	相談 33例 (14/19) 78.5歳
● 認知症 : 11例 (64.7%) が BPSD前が多い	● 認知症 : 19例 (57.6%) BPSD前が多い
● 虐待: 1例	● 精神疾患: 4例 (12.1%)
● 独居: 4例 (23.5%) 一人が住所なし	● 虐待 (虐待者): 5例 (15.2%)
● 介護申請未 11例 (64.7%)	● 相談 : 13例 (39.4%) — 高齢世帯や多子と子どもの 二人世帯が多い — 一人が住所なし
	● 介護申請未 : 16例 (48.5%)

在宅医療療養相談窓口事業 北区モデル エリアマネージャー担当支援センター

北区の事業として北区保健福祉センターに委託。
保健福祉庁・在宅医療療養相談窓口支援委員会
の支援を受け、保健福祉センターに相談窓口を
開設し、相談の受付と支援を行っていく。

A 相談・支援 在宅医療療養相談支援センター(1)

- ① 相談・支援の受付
- ② エリアマネージャーによる相談・支援
- ③ 在宅医療療養コーディネーターによる相談・支援
- ④ 看護コーディネーターによる相談・支援

B 情報提供 在宅医療療養相談支援センター(1)

- ① エリアマネージャーによる情報提供
- ② 在宅医療療養コーディネーターによる情報提供
- ③ 看護コーディネーターによる情報提供

C 紹介 在宅医療療養相談支援センター(1)

- ① エリアマネージャーによる紹介
- ② 在宅医療療養コーディネーターによる紹介
- ③ 看護コーディネーターによる紹介

D 調整 在宅医療療養相談支援センター(2)

- ① エリアマネージャーによる調整
- ② 在宅医療療養コーディネーターによる調整
- ③ 看護コーディネーターによる調整

E 在宅医療療養相談支援センター(1)

- ① 在宅医療療養コーディネーターによる相談・支援
- ② 看護コーディネーターによる相談・支援

2014年度事業計画書の掲載図表に示され、6:00、2:00、4:12、1:00で実施。()内は実施回数

73

7月 平成27年度第4回地域医療セミナー

地域の小規模多機能病院の未来

講師：宮城県気仙沼市立本吉病院
院長 齋藤 稔哲 氏



「当院はまだ課題が多くバタバタと毎日が過ぎていますが、急性期→当院でのリハビリ→自宅療養→当院からの訪問診療という流れはできてきました。今後も少しずつ地域に必要な機能を病院の活動の一つとして増やしていこうと思っています。」という齋藤先生。被災地での地域医療について、聞いてみましょう！

日時：平成27年7月3日（金）18:00～19:30

場所：島根大学医学部みらい棟4Fギャラクシー

募集人数：50名（お弁当を準備しています。）

申込み先：メール：career@med.shimane-u.ac.jp 電話：0853-20-2558

申込み締切：平成27年7月1日（水）



島根大学医学部地域医療支援学講座 日高・芦田

地域の小規模多機能病院の未来

気仙沼市立本吉病院
齋藤 稔哲



災害復興住宅 H27.1月から入居開始



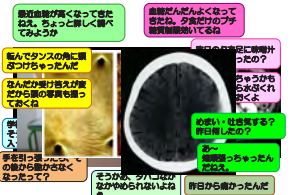
- 入居者は高齢者独居が多い
- ✓ 高齢化率50～60%
- 様々な仮設住宅群からの転居のためコミュニティ構築ができていない

気仙沼市立本吉病院



診療科目
内科・小児科・外科・整形外科・精神科
医師
常勤医4名（今年度1名増員！）
（全ての医師が全ての分野をカバーする）

ある日の外来 ver.2015



H27.6.30.の病棟の入院患者内訳

肺炎	3
リハビリ	3
尿路感染症	2
摂食障害	2
脳梗塞	2
大腸ポリープ	2
認知症	1
心不全	1
パーキンソン病	1
慢性腎不全	1
褥創	1

①生後2ヶ月予防接種を希望する男児

- 2ヶ月5日 男児
- 最近鼻水が出ることで来院
- 診察の結果症状は重篤ではなく、経過観察でよいこととなった
- 診察後母から今後の予防接種についてどのように受ければよいか質問あり

どうする？

ワクチンの効果、種類、接種時期・方法

- ロタウイルス
- 肺炎球菌
- インフルエンザ菌b型
- B型肝炎
- 四種混合
- ジフテリア、破傷風、百日咳、ポリオ
- BCG
- MR
- 風疹、麻疹
- 水痘
- おたふくかぜ
- 日本脳炎
- インフルエンザ
- 二種混合
- ジフテリア、破傷風
- ヒトパピローマウイルス

②友達とすぐけんかをしてしまう女児

- 7歳 女児
- 主訴：学校での度重なるけんか
- 生育歴：発語3歳。幼稚園の頃から集団行動苦手、同年代の子どもとおもちゃの奪い合いがたびたびみられた。
- 学校での様子：授業中に板書ができない、すぐ立ち上がって教室内歩いてしまう。クラスメイトに再々たよかいをだす。

どうする？

発達障害への取り組み

- 関係スタッフ
 - 学校：担任、学年主任、スクールカウンセラー、学習支援員、養護教諭、支援学級担任
 - 支援学校：障害児支援員、相談窓口
 - 児童相談所
 - 小児神経、小児精神専門医
- 関係スタッフとの情報交換、支援方法の共有
- 専門医の意見を参考に投薬調整
- 大人になったときに社会との関わりが断たれないようにすることを目標に

③高血圧で定期受診をしている女性

- 82才女性
- 主訴：
 - 特になし（調子よいと話される）
 - 高血圧のため降圧剤を2種類飲んでいる。
 - 本日の血圧は135/78
- 既往歴：
 - 変形性腰椎症で慢性疼痛はみられる（他院受診中）

どう診療する？

- 調子どう？
- 日中何しているの？
- 今誰と住んでいるの？
- 家事は誰がしているの？
- 夜は眠れている？
- 便秘ない？便は黒くない？
- 動いたときに胸が苦しくなったり、おなかの具合が悪くなったりしない？
- 何か体の中で気になるところない？
- 健診受けてる？

- 慢性疾患のコントロールをよくする
- 慢性疾患のコントロールに影響を与える因子を探る
- 未だ見つからないが、進展すると重大な結果を招くような疾患がないか探る
- 自分の健康に目を向けるきっかけをつくる
- 本人や家族、関わりのある人達が望むような生活が送れるように支援する

④アルコール依存で体調を崩す患者

- 68才男性
- 現病歴：
 - 糖尿病
- 経過：
 - 以前から糖尿病を指摘されていたが放置。
 - 震災後、仮設で独り暮らし。
 - アルコール多飲で体調を崩し、市職員に付き添われ受診→血糖976！→そのまま入院
 - 入院翌日には自覚症状消失し、帰宅願望強く入院継続困難

- 退院し仮設住宅へ帰る
- 翌日には市役所職員と訪問し状態確認
- 糖尿病の悪化による体調不良をきたさないために、最低限の内服薬を飲みやすい形で提供
- 部屋には万年床と、母・妻の位牌
- ひとりぼっちにさせないために関係者で交替しつつ訪問や電話による状態確認
- 自分の一生は自分のもの
- どのような行動にも理由があるのだから共感を持つ
- 積極的訪問診療
- 医療者にとって困った患者でも関わりを持ち続ける

⑤胃腸末期で転院になった男性

- ・ 72歳 男性
- ・ 2014年5月食欲不振精査から胃がん発見
- ・ 胃全摘手術実施。2015年1月の定期検査で再発確認。抗がん剤投与実施するも癌性腹膜炎
- ・ 仙台の中核病院入院中余命わずかであるため地元へ帰ることを希望

- ・ 自宅に帰りたいのか、地元に戻りたいのか？
- ・ 自宅に帰るための準備は？
- ・ 病院の受け入れは？
- ・ 本人の希望と家族の準備
- ・ 本人と家族の双方が満足いくようにするには？

- ・ 本人、家族、病院スタッフ(医師、訪問看護師、病棟看護師)、ケアマネージャー、ヘルパーステーション、福祉用具担当者、訪問入浴、老人福祉施設等関係者による話し合い
- ・ 本人と家族の双方が満足いくようにする調整

⑥脳梗塞によって意識障害をきたした男性

- ・ 91才 男性
- ・ 既往歴：脳梗塞(右不全麻痺)
- ・ 現病歴：
 - 老人保健施設入居中
 - 右不全片麻痺みられていたが、車椅子から立ち上がってトイレで自力排泄できていた。
 - 車椅子で食堂にいた際に意識レベル低下し当院受診(レベル低下起こす数日前から受け答え低下してきていた)
 - 受診時はJCS 1桁～2桁を行ったり来たり
 - 入院翌日のCTで脳幹梗塞と診断

- ・ 点滴と経鼻胃管からの抗血小板療法開始
- ・ 治療開始2日後：呼びかけに開眼し、「はい」と返答
- ・ 治療開始後3日：歯科医師・看護師による摂食嚥下機能評価
- ・ 経鼻胃管から栄養を注入し、サルコペニア予防を図りつつ、摂食訓練実施
- ・ 経口摂取訓練11日目で栄養は全て口から摂取可能になる

気仙沼市と本吉町

	気仙沼市	本吉町
人口	67,951	10,461
高齢化率	33.1	31.9
医療機関数	30	1
歯科医院数	22	3
医師数	82	4
介護老人保健施設	4	1
介護老人福祉施設	6	1
訪問看護事業所	5	1
訪問介護事業所	13	2
訪問リハビリ事業所	3	1

H26.3.31現在

地域内各機関



住民の皆さんと協働するために

住民の皆さんとの意見交換会で伝えしていること

医療の役目は？

病気を治療して健康な期間が長くなるように支援すること

たとえば・・・

- ・ 早期の癌を見つけて、完治させる
- ・ 糖尿病を治療して、透析や脳卒中・心筋梗塞にならないようにする

永遠の命を約束することは出来ない

住む場所
と
治療する場所家
ケアハウス
グループホーム
老人ホーム
介護老人ホーム病院
介護老人保健施設本吉病院は自分の住み慣れた
場所での生活を支援します

- 口から食べるための訓練をします
- 家の中で活動できるようにリハビリをします
- 痛みや苦しさやひどくならないように対応します

町は大きなホスピタル

医師 看護師 介護士 福祉士

家は病室

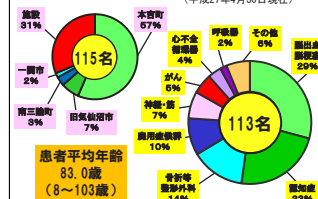
道路は病院の廊下

電話はナースコール

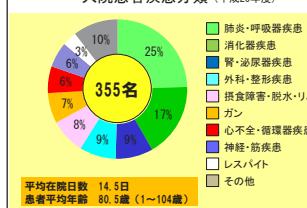
家族・地域の皆さんは医療・介護・
保健・福祉スタッフ

家で出来ること

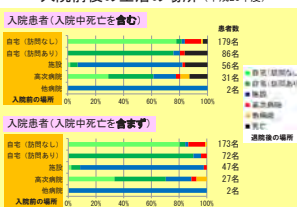
- ・ 点滴することが出来ます
- ・ 呼吸が苦しい方に酸素投与が出来ます
- ・ 痛みがひどい方に病院ですることと同じような痛みの治療が出来ます
- ・ 経鼻チューブや胃管からの栄養投与が出来ます
- ・ 膀胱カテーテルをいれて尿の管理も出来ます
- ・ 血液検査・X線検査・超音波検査も出来ます

ただし、365日24時間必ず訪問医療や看護
しますとお約束は出来ません弱っていく方を自宅で見て
いくことに不安は大きいです不安はみんなで協力しながら
対応しましょう医療・介護は
医療・介護スタッフと
家族・地域の皆さんとが
一緒に力を合わせて
創り上げるもの本吉病院の訪問診療件数・疾患分類
(平成27年4月30日現在)

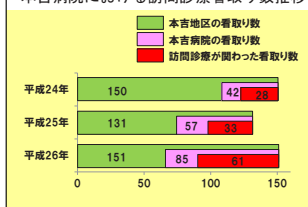
入院患者疾患分類 (平成26年度)



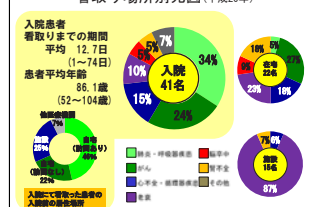
入院前後の生活の場所 (平成26年度)



本吉病院における訪問診療看取り数推移



看取り場所別死因 (平成26年)

本吉病院は
自分の住み慣れた場所での
生活を支援します

総合診療医の6つのコアコンピテンシー

1. 人間中心の医療ケア
 - ① 患者さんとの信頼関係の構築
 - ② 患者さんへの説明と同意
 - ③ 患者さんへの心理的ケア
 - ④ 患者さんへの社会的ケア
2. 包括的総合ケアアプローチ
 - ① 患者さんを中心としたチーム医療の実現
 - ② 患者さんへの総合的なケア
 - ③ 患者さんへの継続的なケア
 - ④ 患者さんへの継続的なケア
3. 連携医療のマネジメント
 - ① 連携医療の推進
 - ② 連携医療の実現
 - ③ 連携医療の評価
 - ④ 連携医療の改善
4. 地域連携のアプローチ
 - ① 地域連携の推進
 - ② 地域連携の実現
 - ③ 地域連携の評価
 - ④ 地域連携の改善
5. 公益に資する医療提供
 - ① 地域医療の発展
 - ② 地域医療の向上
 - ③ 地域医療の普及
 - ④ 地域医療の発展
6. 診療の場の多様性
 - ① 在宅医療
 - ② 在宅医療
 - ③ 在宅医療
 - ④ 在宅医療

連携重視
地域指向

- ・ 乳幼児検診
- ・ 幼稚園・小中学校の校医
- ・ 仮設健康相談
- ・ 支援学校の医療支援
- ・ 地域企業の産業医
- ・ 老人福祉施設、障害者福祉施設の嘱託医

研究と教育



地域医療教育拠点として臨床研究に力を入れる

地域の小規模病院だからこそ教育

地域の
小規模多機能病院の未来

みんなで生きる 地域づくり

地域から発信する
新しい医療の形

Face book page「本吉病院」



平成27年度
第5回

地域医療セミナー

9月

地域医療はほんとうに面白い！

～地域包括ケアからまちづくりへ…隠岐の島、そして岡山県哲西町での取り組みから～

講師：佐藤 勝 氏

岡山大学
地域医療
人材育成講座
教授



岡山県新見市哲西町診療所でご活躍中の佐藤医師。人口3200人の町で地域包括医療を第一線で取り組んでいらっしゃいます。

これから島根のみならず日本で必要とされている地域包括医療に取り組む佐藤医師の講演、お見逃し無く！

来てね..

・ 日時：平成27年9月4日（金）18:00～20:00

・ 場所：島根大学医学部みらい棟2F共通カンファレンス

・ 募集人数：50名（お弁当を準備しています。）

・ 申込み先：メール：carrer@med.shimane-u.ac.jp 電話：0853-20-2558

・ 申込み締切：平成27年9月2日（水）

島根大学医学部地域医療支援学講座 日高・芦田

島根大学医学部医学科 1027年9月4日

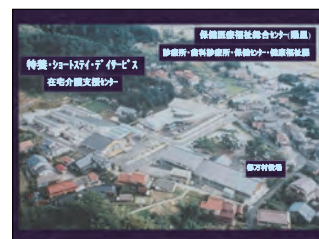
地域医療はほんとうに面白い！

～地域包括ケアからまちづくりへ
～隠岐の島、そして岡山県哲西町での取り組みから～

岡山大学大学院医歯薬学総合研究科地域医療人材育成講座
哲西町診療所 佐藤 勝

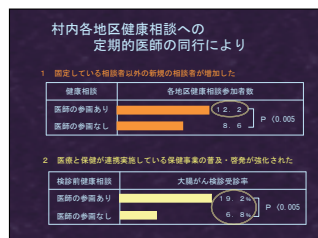
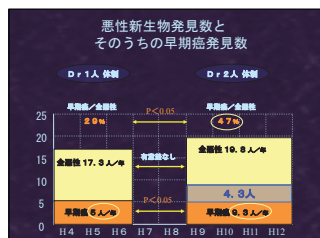
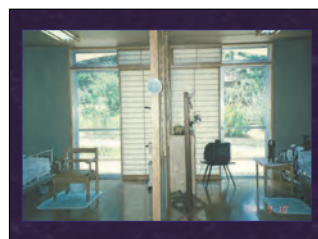
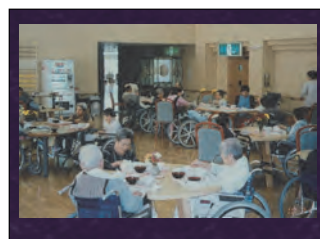


- 「隔離された特養」というイメージをつくがえす
- 特養を含む保健医療福祉総合施設を



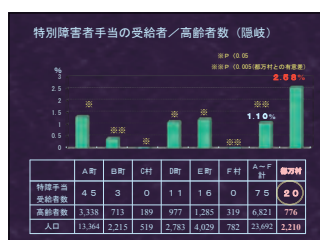
特別養護老人ホーム入所者のADLの推移
(入所時から1～2年)

ADL	入所から 1年以内	入所から 2年以上	合計
何らかの項目で向上あり（増明改善）	13 (6)	14 (3)	27 (9)
向上なし	2	4	6
合計	15	18	33



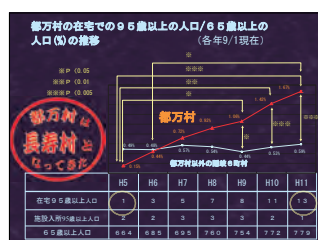
胃がん検診精密検査受診率

100% (5年連続)



全スタッフが制度に精通
→ 連携の徹底
→ 誰が訪問しても相談窓口
→ 該当者の掘り起こし

効果的サービス



第6回地域医療セミナー 11月

「せつい」「いたい」

もし“診察室”で言われたら

出雲弁の患者さんとコミュニケーションをとるために

講師：藤岡 大拙氏

テーマ：出雲弁の特徴について
「方言医療」...方言は大切な
～コミュニケーションツール～

地域医療実習 学生の方言についての感想より

- 訪問医療で、他県出身の先生が出雲弁を使って患者さんと会話をしていた。地域に生きる言葉を使うことで、患者さんとの信頼関係が生まれると感じた。
- 地域の方と積極的にコミュニケーションをとるのは、自分が想像していたよりもはるかに難しく感じた。訪問診療などの際には地域の方とのコミュニケーション力が重要。

・ 日時：平成27年11月24日(火) 18:00～19:00

・ 場所：島根大学医学部みらい棟2F共通カンファレンス

・ 募集人数：50名(お弁当を準備しています。)

・ 申込み先：メール：career@med.shimane-u.ac.jp 電話：0853-20-2558

・ 申込み締切：平成27年11月18日(水)

島根大学医学部地域医療支援学講座 日高・高橋

※熱い思いを講演いただきました。

平成27年度
第7回

地域医療セミナー

地域包括ケアシステムと 社会医療法人仁寿会の取り組み

講師：加藤病院 事務部長 **田中 修** 氏



「すべての人に平等に心のこもった医療をご提供いたします」を事業理念に掲げた島根県川本町にある加藤病院に長年お勤めの田中氏。
医療従事者支援者として川本町での地域包括ケアを語っていただきます。
ここでしか聞けない病院の「今」を聞きにぜひお越しください。

・日時：平成27年12月11日(金)18:00～19:30

・場所：島根大学医学部みらい棟2F共通カンファレンス1

・募集人数：50名(お弁当を準備しています。)

・申込み先：メール：career@med.shimane-u.ac.jp 電話：0853-20-2558

・申込み締切：平成27年12月9日(水) 島根大学医学部地域医療支援学講座 日高・芦田



地域包括ケアシステムと 社会医療法人仁寿会の取り組み

2025年地域医療・介護の将来像から



社会医療法人仁寿会事務局
理事・事務局長 田中 修

本日の話し

1. 仁寿会の紹介
2. 医療行政の改革と仁寿会の歩み
3. 医療提供体制
4. 教育
5. 研究
6. 勤務環境改善

「病院完結型医療」から「地域連携型医療」へ

・医師不足が続く中、離れた医療資源を活用する必要性
「金銭的負担の軽減(経済性)」では対応できない
・総合病院志向ではなく、二次医療圏内での役割分担へ
・地域医療圏を強く病院・診療所の地域連携



医療・介護をめぐる3つのキーワード

1. 人口減と少子高齢化

・有病率とアフターサービス、シフト表

・医療・介護の負担、若い手は

2. 医療崩壊と地域医療

・地域医療・連合共同体、地域を離れさせないために～地域のBCP

3. 社会保険費削減

・予防・健康増進、医療のコスト、効率性(ICT-Kaizen)

・選択と集中、専門医が総合(診療)医・家庭医

地域包括ケアの本質

The Integrated Community Care System



川本町の現状

- ・川本町は、島根県の中で中央に位置する中山間地域
- ・医療機関として東大が設置されたのは昭和50年、昭和50年の開設から現在まで10年経った(医療提供体制がガラパゴス化)
- ・人口は、4,233人、医師は4.0人(107.13.31現在)
- ・2025年現在の人口推定は約3,500人(減少率約17%)



1 仁寿会の紹介

「こんにちは、です。みなさまおつかいします！」



「仁寿会地域包括ケア在宅医療連携センター」30 ちびっちゃんです。

社会医療法人仁寿会 (100周年)

次世代育成支援対策推進法認定事業所(厚生労働省優良労働局)

- 【加藤病院】
・地域医療・介護・健康・生活・福祉・教育・研究・国際交流・社会貢献
・地域医療・介護・健康・生活・福祉・教育・研究・国際交流・社会貢献
・地域医療・介護・健康・生活・福祉・教育・研究・国際交流・社会貢献
- 【仁寿会施設】
・地域医療・介護・健康・生活・福祉・教育・研究・国際交流・社会貢献
・地域医療・介護・健康・生活・福祉・教育・研究・国際交流・社会貢献
・地域医療・介護・健康・生活・福祉・教育・研究・国際交流・社会貢献
- 【在宅医療連携センター】
・地域医療・介護・健康・生活・福祉・教育・研究・国際交流・社会貢献
・地域医療・介護・健康・生活・福祉・教育・研究・国際交流・社会貢献
・地域医療・介護・健康・生活・福祉・教育・研究・国際交流・社会貢献

仁寿会の施設



職員構成

人数	医師	看護師	事務
加藤病院	120	250	150
加藤病院	5	2	3
加藤病院	8	6	5
加藤病院	34	5	20
加藤病院	20	9	17
加藤病院	100	40	100

社会医療法人仁寿会の中核を支える加藤病院の機能・果たしている役割

1. 地域医療・介護・健康・生活・福祉・教育・研究・国際交流・社会貢献
2. 地域医療・介護・健康・生活・福祉・教育・研究・国際交流・社会貢献
3. 地域医療・介護・健康・生活・福祉・教育・研究・国際交流・社会貢献
4. 地域医療・介護・健康・生活・福祉・教育・研究・国際交流・社会貢献
5. 地域医療・介護・健康・生活・福祉・教育・研究・国際交流・社会貢献
6. 地域医療・介護・健康・生活・福祉・教育・研究・国際交流・社会貢献
7. 地域医療・介護・健康・生活・福祉・教育・研究・国際交流・社会貢献
8. 地域医療・介護・健康・生活・福祉・教育・研究・国際交流・社会貢献
9. 地域医療・介護・健康・生活・福祉・教育・研究・国際交流・社会貢献
10. 地域医療・介護・健康・生活・福祉・教育・研究・国際交流・社会貢献

公的役割機能等

島根県地域医療拠点病院(地域医療振興基金)・・・加藤病院
島根県診療機能強化対象補助金交付対象病院
島根県救急医療高度化推進協議会
厚生労働省医療研修施設・・・加藤病院
大田市指定管理施設 仁寿会診療所しほり運営
美郷町立若谷診療所医師派遣
島根県立川本警察署嘱託医師(遺体検案・留置人診療)
川本町小学校・中学校学校医
島根県立中央高等学校学校医

医学部学生臨床実習、施設介護福祉実習指定施設等

島根大学医学部
広島国際大学薬学部(呉市)
島根県立大学出雲キャンパス看護学部看護学科(出雲市)
広島医療保健専門学校(広島市)
松江医療専門学校(松江市)
島根リハビリテーション学院(出雲市)
リハビリテーションカレッジ島根(浜田市三隅町)
国際医療福祉大学出雲校(出雲市)
吉備国際大学(岡山県高梁市)
岡山医療技術専門学校(岡山県岡山市)
出雲医療看護専門学校(出雲市)

2 医療行政の改革と仁寿会の歩み

医療行政の変遷・医療提供体制拡大期(1930年～1980年)

- 1932年 加藤病院(現加藤病院)が川本町に開設
- 1938年 厚生労働省
・国民健康保険法(昭和13年)公布
・医療費：20円、診療科目：内科・外科・産婦人科
1948年 医療法公布(国民健康保険法)公布
・国民健康保険法(昭和23年)公布
1951年 国民健康保険法
1955年 医療法、診療科目：内科・外科・産婦人科・小児科・眼科・耳鼻科・皮膚科・泌尿科・放射線科
・国民健康保険法(昭和30年)公布
・国民健康保険法(昭和30年)公布
1973年 国民健康保険法
1976年 医療、診療の提供を目的に、国民健康保険1000に達する



1981年 診療報酬の抑制・薬価の引き下げ
1982年 老人保健法制定、老人医療費削減
1983年 厚生省保険局長であった吉村仁（のちに厚生省事務次官）が
増え続ける医療費に警鐘を鳴らす『医療費の国論』を発表。
以来、増え続ける医療費を抑制すべく、官僚主導の改革が
強力に押し進められている。
1984年 健康保険本人一割負担

第一次高齡政策改正
 1) 地域高齡計畫策定－医療資源の地域偏在修正
 2) 医療施設連携推進

1986年 老人保健法制定・老人保健施設創設

1989年 高齢者保健福祉推進10年計画（ゴールドプラン）

1990年 仁寿会加藤病院85床・老人保健施設仁寿苑 30床開設

1991年 老人訪問看護制度創設

[illegible][illegible][illegible]



**へき地医療分野
全国で16番目**

「地産地消」を推進する 川本の「ふるさと産業」

（前掲）

（中略）

（後略）

（前掲）

（中略）

（後略）



（前掲）



（後略）

[illegible]

2011年	社会福祉法人に改組（※地域医療）
2012年	2次医療圏の再編 2次医療圏の見直し、急性期医療圏の削減、地域医療包括システム特設診療科の往來連携強化。（50床） ※このときの最前線現場でワークシフト導入 2013年へバスタード・シフト導入（巡回診療、訪問療養、特定診療、災害時支援） 市民病院の夜間救急科の再編設置 ※バスタード・シフト導入、専任職員
2014年	地域包括ケア推進、在宅医療推進の取組 （6月1日より、地域包括ケア体制26施設より、7月1日地域包括ケア体制11箇所へ） ※9月1日地域包括ケア体制53施設、在宅医療推進型在宅医療体制26歳 10月より巡回診療開始
2015年	診療所 仁愛診療所をさがしね病院として 5月よりエリアケア開始

1990	・日本経済団体連合会 広報・メディア・広報 開設
1997	・経団連所属 在宅勤務対策委員会 開設 経団連導入システム 在宅勤務センター（在宅勤務推進センター）と開
2002	・経団連所属 在宅ネット（在宅勤務推進センター）開設
2006	・経団連所属 在宅勤務推進センター 開設
2008	・経団連所属 在宅勤務推進センター 開設
2011	・経団連所属 在宅勤務推進センター 開設
2012	・経団連所属 在宅勤務推進センター 開設
2014	・経団連所属 在宅勤務推進センター 開設

[illegible][illegible][illegible]

- 1.住み慣れた地域で安心して生活できる環境とは
→ 30年程度を見越した地域づくりを考えること
- 2.「医家から介護へ」「施設から在宅へ」の名のもとで行われることは
→ 地域住民が安心して在宅に近い環境で住むことができる場所
- 3.多層的なサービス提供体制を地域連携システムとして構築し、運用を可視するには
→ 垣根を越えた多機関連携システムの構築
- 4.次世代を担う人材を育成するには

第一屆研習
計24名老師

平均在院日数

项目	7月	8月	9月	10月
入院患者数	32.1	23.8	34.1	27
在室待床者	32.1	23.8	34.1	27
退院患者数	32.1	23.8	34.1	27
平均在院日数	32.1	23.8	34.1	27

指标	7月	8月	9月	10月
在毛鸡育雏、雏鸡转舍必须度A项目、病鸡掉膘率	95.9%	80.9%	86.2%	94.0%
在毛鸡育雏、雏鸡转舍必须度A项目、病鸡掉膘率	35%	20%	25%	20%
在毛鸡育雏、雏鸡转舍必须度A项目、病鸡掉膘率	95.9%	80.9%	86.2%	94.0%
在毛鸡育雏、雏鸡转舍必须度A项目、病鸡掉膘率	95.9%	80.9%	86.2%	94.0%

内科・消化器内科・泌尿器内科・神経内科・ペーシング内科・外科・泌尿器科・眼科・耳鼻咽喉科・リハビリテーション科・産科・小児科		
救急医療時対応施設認定病院 (Ver6.0) 強化型医療支援体制 救急医療 厚生労働省健康増進協力施設 島根県公営医療機関 救急連絡協議会NST移動施設 日本救急医学会加盟会 N S T 移動		
ケア施設	49人	57人
入居者数	約13人	平均年間12人
入居率	91.7%	在宅復帰率
	看護士2人	介護士2人
入居者数	21人	平均年間12人
入居率	79.1%	在宅復帰率
外居者数	74.7人	看護士
在宅者数	42.6人	介護士

年份	国内企业	国外企业	1位平均企业数
2014年	2,816	4,045	256.7
2015年	2,816	4,045	256.7
2016年	3,070	4,045	272.0

年份	三峡库区人口 (万人)	三峡库区人口 (万人)
2004	300	300
2005	300	300
2006	300	300

Age Group	1990	2000	2010
0-14	500	350	250
15-24	100	150	200
25-34	150	100	80
35-44	80	100	120
45-54	120	80	60
55-64	60	80	100
65+	20	40	60

部门名称	人力资源部	市场部	销售部	生产部	研发部	财务部	其他
2010年度	200	80	20	60	30	20	10
2011年度	250	110	30	70	40	25	15
2012年度	280	120	40	75	45	30	20
总计	730	220	90	205	115	75	45

[illegible]

「ヘルスプロモーションカー」

ドクターカー機能を持たせ、医療機器も搭載している
 「ヘルスプロモーションカー」は26年3月より運用



（搭載機器・機材）

- ・救急用・応急
- ・搬送用ユーク
- ・体組成計
- ・パルスオキシメーター
- ・超音波検査機（心臓）
- ・災害時等緊急必要物品

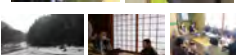
（運用内容）

- ・巡回診療・巡回診察
- ・救急予知活動
- ・医療関係者研修支援
- ・衛生事業などの啓発活動

川市町界隈の地域医療推進活動の一環として、
 医療関係者や市民の皆様、より身近に安全
 安心な医療サービスが受けられるよう、



H26年 4月～訪問診療（週3回）
H26年 10月～巡回診療（月1回）



介護予防事業「チャレンジ豪達教室（計12回）」開催

川島町介護予防事業

サマースクール 避難訓練

●日時：8月10日（水）
●会場：豪達小学校
●参加者：豪達小学校児童、職員、保護者、関係者等
●内容：①防災講話 ②避難訓練 ③夏休み生活指導

■第1回 避難訓練 避難場所

豪達小学校の避難場所は、校庭と体育館です。また、校庭には、避難場所として、ベンチや花壇などがあります。

●避難場所の指定は、避難経路を考慮して決定します。

●避難場所の指定は、避難経路を考慮して決定します。

●避難場所の指定は、避難経路を考慮して決定します。

産業保健・学校保健・禁煙外保等保健予防活動

- 株式会社 ウィザワ
- 鹿屋保健衛生管理署
- JA森野
- 鹿屋保健組合
- 社会福祉法人 川本福祉社会
- 社会福祉法人 鹿野中央サトイ
- 鹿屋地区医師会中央公民校
- 川本町立中央校
- 川本町立南小中学校
- 川本町立川本・国領・北原西

4 教育

将来在宅医療に従事する人材を育成

【由布学園大学門前診療所学生教育プログラム2014】

- 総合臨床実習（内科・外科）：2名
- 総合臨床実習（消化器科）：2名
- 福岡医科大学薬学部：3名
- 福岡大学歯学部：1名
- 山口県立大学社会福祉学部：1名
- 山口県立大学経済経営学部：2名
- 高校校：11名
- 社会福祉士候補生等：1名

医・薬・歯専門職学生連携教育プログラムの実践

島根大学医学部・広島国際大学薬学部・島根県立大学看護学部
専門職学生合同臨床実習施設(2013・14年度 4期)156名が参加!



実習に関する自由記述

大学病院での実習の思い出の多い方向に力をつけている。そして、いろいろな経験を積んでいる。患者さんとの接点、病室に訪問の場、医療の学生チームでの診療の補助など実習ができて「何卒の思い出」に変わっていった。

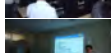
医師だけでなく様々な医療入りの職種から物事を学ぶことができて視野が広がった。

本当に貴重な体験をさせていただいた病院のひとに感謝の気持ちを明確にしました。

現場では、(MSWさんや、ケアマネージャーさん、薬剤師さんなど)とさまざまな職種とできる仲間がいればよかった、楽しかった。

中学生や高校生の医療体験・地域医療を考えるワークショップ

高校生医療現場体験セミナー ― 中学校施設見学



[illegible][illegible]

5 研究

[illegible][illegible]

6 勤務環境改善

[illegible]

2014年上半期 仁寿会議員 1人当たり所定時間外労働時間

月	所定労働時間 (時間)	残業時間 (時間)	総労働時間 (時間)	総労働時間率 (%)
4月	0.80	0.20	1.00	125%
5月	1.00	0.00	1.00	150%
6月	0.80	0.20	1.00	125%

地域包括ケア機構開設、電子カルテ導入で職員で過去平均に回復

過去3年間の(社医)仁会会 年次有給休暇取得率

年次	(社医)仁会会 (%)	医療・福祉事業団体 (%)
2011	86.9	42.5
2012	80.5	47.5
2013	82.4	46.1

※参考資料:労働省「平成23～25年度労働条件総合調査結果の概況」

仁寿ヘルシーワークプレイスプロジェクト
～医療勤務環境改善に関する取り組み～

社会医療法人寿会では、これまで職員 の健康と成長を支援してきた。当法人の取組は社会的にも高く評価され、様々な認定・賞を受賞。

今回、**医療機関改善プロジェクトシステム**の**協会の事業**として、さらなる向上を目指し、新たなプロジェクトを立ち上げることとなる。



2020年1月 日本医療協会の協賛
医療機関改善プロジェクト事業開始



2020年、4月7日 厚生労働省
に認定（認定）- 認定



2020年10月
に表彰（表彰）- 表彰

2009年 “ふかん”

新年度の労働組合活動の中心は次年度支援対策案策定

①「ふかん」の教育委員会を組織するにあたって、教育委員会に所属するすべての労働組合員と連立して積極的に活動していくことを組合員の本音として確認。福祉行政推進事業体で山形県、岩手県、秋田県、2市3県で連携して教育委員会に働きかけ、労働組合員が中心となる。労働組合員が中心となる行政計画を策定、労働組合員、組合員25人以上の労働組合員に次年度支援対策案の賛否を問うアンケートを実施。賛否は賛成130人(3.9%)、反対(未回答)賛成企業数130人(3.9%)、反対700人(20.0%)、未回答130人(3.9%)。(当該調査時数)

②労働組合員と子どもたち・労働組合員と子どもたち(社会福祉推進事業体)の連携を推進する。

③労働組合員に、1人以上の子供を持つ労働組合員に育児休業制度を定める。

④子育て育児休業制度を100%。

⑤労働組合員、組合員、労働組合員を支援し、その利益を確保する。

⑥労働組合員を支援し、その利益を確保する。

**仁寿ヘルシーワークプレイスプロジェクト
(以下「J HWP」) の立ち上げ**

このプロジェクトの目的は、事業主が医療従事者等と協力し、自主的な勤務環境改善を促進することにより、職員の勤務環境の改善を行い、人材の確保とともに、安全で質の高い医療を提供し、当法人内外にも周知を図る事を目的とする。

取り組み

ガイドライン（以下指針）の策定
本指針は、70以上のチームを中心にP D C Aサイクルを回すことで構築して定めた。

- 現状の分析
- 改善計画の作成
- 改善計画の実施
- 評価

7つの視点

I. 作業環境管理

職場の労働環境自体を適切に管理し、整備、改善をすすめる

- 作業環境測定
- 温度、湿度、WBGT(湿度等)
- VDT作業管理
- ハラメントのない職場づくり
- 目標管理で職員の主体的に取り組め促進

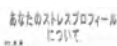
●取組：衛生管理者が毎週環境巡回を行っている

7つの視点

II. 作業管理と改善

職員の身体を適切に管理することで、長時間勤務を避けるような労働時間管理を行い、従業員の健康、適切な雇用などの改善をする。

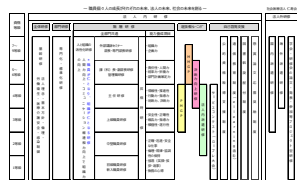
- ・労働時間短縮
- ・労働時間管理
- ・年間労働時間削減目標：2時間2分
- ・年勤有休取得率：92%
- ・重傷労働作業支援（移乗支援装置）
- ・PPE整備
- ・労働生産性・作業効率の向上（マニュアルの整備・改訂等）
- ・安全運転支援（電通TPV研修）



- ・人事制度と連動したキャリア形成支援
(PMGP、MMGP、決断力向上研修等)
- ・資格取得支援（就学資金貸付）
- 介護士から准看護師取得：20名 ●准看護師から正看護師の取得：7名
- ・学会・研修会参加支援
(全日本病院学会、日本医学看護学教育学会)
- ・表彰・報奨制度（MVP、研究奨励賞等）

- 職員の安全を守り、そのことによって安全・安心な医療を患者さんに提供できるようにすすめる。
- ・リスクアセスメント、4R-KYT（危険予知活動）の実施

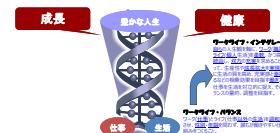
- 年2回の定期研修会、ほか院内勉強会を開催、あるいは学会等への参加支援を行う。



- 法人として快適な職場を作るため以下の体制を構築

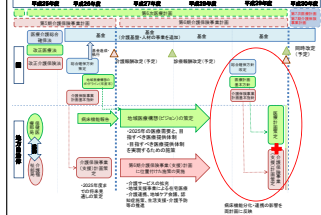
- ・JHWP満足向上チーム
(JHWPのPDCAサイクルを中心に回す)
- ・統括安全衛生管理者の任命
- ・衛生管理者の任命
- ・産業医の任命
- ・相談窓口の設置(ハラスメント、メンタルヘルス等)
- ・社会保険労務士の外部委託

- 『最近「ワーク・ライフ・バランス」という考え方が流行っていますが、僕は、大事なのがワーク・ライフ・インテグレーションだと思うんです。仕事と家庭で両方切り替える。役割を使い分けるのではなく、主人としての、生活者があって、それ仕事とプライベートではどっちに傾斜を示しているかではないかと考えています。』
- 2009年度 芥川賞受賞 鴨嶋泰一 氏 文芸春秋刊 154頁



- ### 常に「使命は何か」を問い続ける ～ 組織のパフォーマンス

- 私たちは、「われわれの使命は何か」を問ひ、導き分けねばならない。
そのためには、
- ① 私たちの課題と機会を分析する
 - ② 顧客を確認する
 - ③ 顧客が価値があるとみなすものを知る
 - ④ 成果が何であるかを明らかにする
 - ⑤ 長期的展望から計画する
 - ⑥ 現実を見据えて使命を達成する
- ①から⑥の治理理念・基本方針の策定 → 使命は何か、成果は何か
⑦スワップ教育技術の導入 → 顧客は誰か
⑧地産地消推進の計画 → 課題は何か、機会は何か
⑨今年に「寿会会」が必要とする機能はどうか → 計画は何か、成果は何か
- 戦略（方向性・目標）と数値（どうするか・何をやる）**
(覚えているか？) (覚えているか？)



- 本誌掲載の「ライフスタイル」の5つの構成要素は、「住まい」「食生活」「自衛」「節約」「生活意識」を詳しく、またこれらの要素が互いに影響しあう有機的な関係性を持っていることとが前提となります。
- 地域における生活の基盤となる「住まい」「生活意識」をそれぞれ、楕円形、楕円形、正方形の順から取り上げている。「住まい」「自衛」「節約」を角形で表現しています。
- 楕円形・正方形といふことには「生活」を楕円と見なすことと対応し、正方形は「ライフスタイル」は、最終的な「ライフスタイル」と意識の中心にせられた「住まい」が位置づけられる。その意味では同時に「日常生活生活意識」の「生活意識」を楕円形・正方形「住まい」が中心となる要素と見なすこととなり得る。そのように見ると本誌に「住まい」が中心となること、専門的には「住まい」「自衛」「節約」「生活意識」の「生活意識」が中心となることと見なすこともできる。



- 医療は地域産業として捉えるべきである。

- すなわち、『医療の崩壊＝地域の崩壊』と考へ、地域の活性化のために必要な経済活動として維持（継続）し、経済活動を自ら主体（イノバ）となつて、需要に応じて変化（イノベーション）すること（繰り返す）ことが最も重要なことである。
- そのためには常に創意工夫・変化・成長を繰り返し、経営基盤を安定させるながら、目標を達成させることが社会医療法人としての使命である。

- 将来の島根の医療はみなさんにかかっています。
今後とも地域のために、一生懸命、頑張ってください！



平成27年度 **1月 特別企画**
地域医療セミナー
～卒後の進路、私はこうして決めました～

研修先はどう選ぶ？先輩医師のアドバイス。
卒後の進路について、実際にどう選んだのか・現在どうなのか。
気になることをグループワーク方式で先輩医師と話をしてみませんか。

講師：島根大学医学部 脳外科講座 助教 中川 史生医師
：島根大学医学部出身 辻 将大医師（予定）

🌸日時：平成28年1月28日（木）18:00～19:30
🌸場所：島根大学医学部みらい棟4Fギャラクシー
🌸募集人数：50名（お弁当を準備しています。）
🌸申込み先：メール：career@med.shimane-u.ac.jp 電話：0853-20-2558
🌸申込み締切：平成28年1月26日（火） 島根大学医学部地域医療支援学講座 日高・芦田

※熱い思いを講演いただきました。

2月地域医療セミナー

平成27年度第9回

～あんきにころり～

講師: 宮崎大学医学部地域医療・総合診療医学 教授

吉村 学 氏

終活と叫ばれている昨今、人の最期にかかわっていく医師に
どんな考え方が必要なのでしょうか。

・ **日時: 平成28年2月10日(水) 18:00～19:30**

・ **場所: 島根大学医学部みらい棟4Fギャラクシー**

・ 募集人数: 50名 (お弁当を準備しています。)

・ 申込み先: メール: career@med.shimane-u.ac.jp 電話: 0853-20-2558

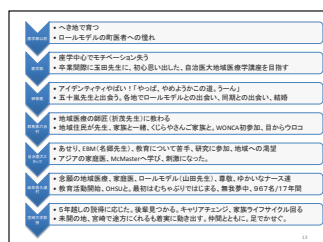
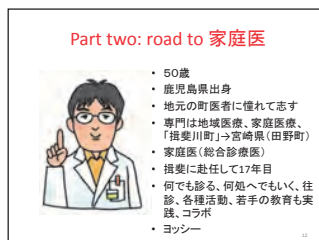
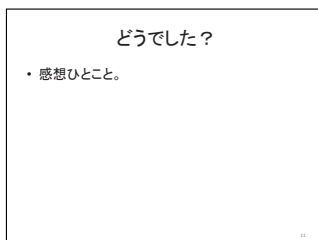
・ 申込み締切: 平成28年2月8日(月)

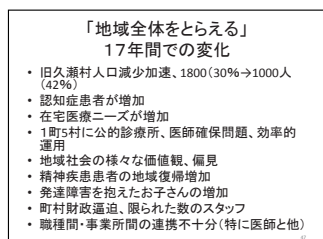
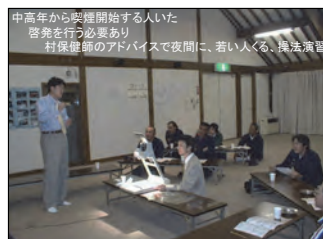
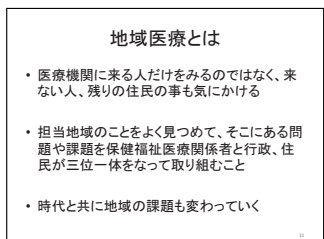
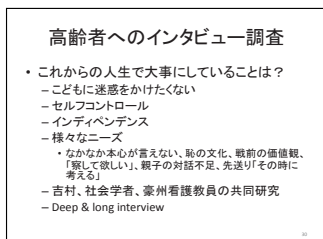
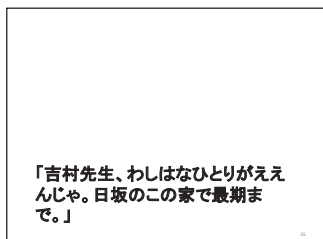
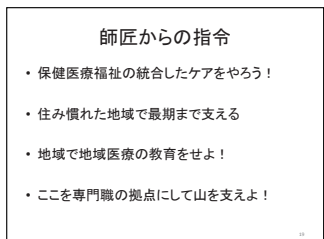
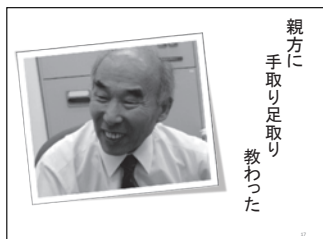
島根大学医学部地域医療支援学講座 日高・芦田



本日の講義が終わるまでに

1. 「あんころの会」を体験できる
1. 地域で働く家庭医(総合診療医)の生きざまを感じることができる
1. 「あんころの会」を仕掛ける際に重要なチェックポイントを幾つか挙げてみる

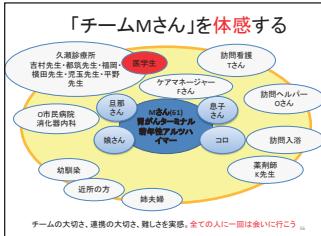
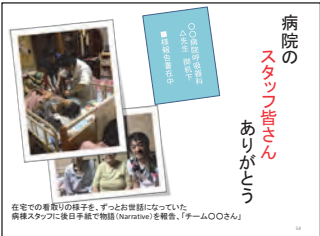




地域全体をケアする 作戦

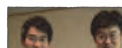
- ・ 旧村人口減少加速 → 住民参加、地域おこし
- ・ 認知症増加 → サーター講座、ものづくり集会
- ・ 在宅医療ニーズ増大 → ユリ予備、広域連携外
- ・ 1町5村の公的診療所、医師確保問題、効率性の運用 → 管理委託方式採用へ
- ・ 地域全体をケアの様々な価値観、偏見 → 地域へへ前
- ・ 精神障害患者の施設療養増加 → 病院へ移行
- ・ 発達障害児増加 → 医師会と広域研修会企画
- ・ 町民意識向上、スタッフ減少 → それぞれ地域へ
- ・ 連携不十分(特に医師と他) → 介入、解決へ

46



地域で実践してきてイイことあった？

- 人材の確保ができた。
 - 医師: 10名/967名/17年, 1/100
 - Number needed to doctor(NND):100
 - 看護師・保健師:150名/10年
 - PT:6名/120名/15年, 1/20
 - 介護福祉士:5/100名/10年, 1/20



16

ごちゃまぜ企画：県境でIPE

A map of Aichi Prefecture, Japan, with various cities and towns labeled in Japanese. Three red circles are drawn on the map to highlight specific locations: one in the northwest (near Toyota), one in the north-central area (near Nagoya), and one in the southeast (near Owariasahi). In the top right corner, there is a logo for the 'Aichi Prefecture International Partnership Exchange' (愛知県国際交流推進機構) and a small circular emblem.

2016/02/23 19

日米国境ごちゃまぜ企画
6月に家庭医療サークル設立記念

60

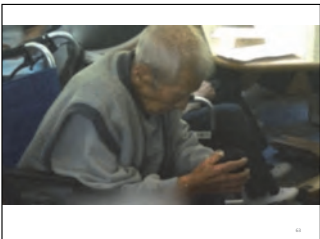
Part three

自分たちで「あんなころの会」は?

- やれそうな地域を探す。先生、保健師、地域の方々、実際の成功事例があると尚よい。
- その地域のreadinessを分析する:色々な側面
- Drのサポート必須、学生グループ、地域との仲介
- 既存の会合に合わせてねじ込むスタイルで。
- あとはTTPで
- 終わった直後が実は重要。フィードバック必須。

30

Before	水戸	After
やる！と決める 実施主体をまとめるチーム 構成	会場設定 マイナースポーツボード、プロ グラム作り、基本コン クリ、会場裏、ラジカ ー	お礼を送る 挨拶に出向く
実施場所を選定する 対象の窓口へ挨拶	出席決定 関係者へ挨拶	アンケート配布 後食
関係者への挨拶（市長、市 対象の窓口、役員、公益代表）・行 動指針を説明	実行作業分組	
内容準備作業 作業分組	反応をみながら変更受 け 関係挨拶	
資金調達の（お菓子・会場費・お 礼）	中絶してからが本番（ダンホ の準備）	



2015年度 地域医療ワークショップ

【日 時】 5月23日(土)14:00~17:00 ※終了後、意見交換会あり

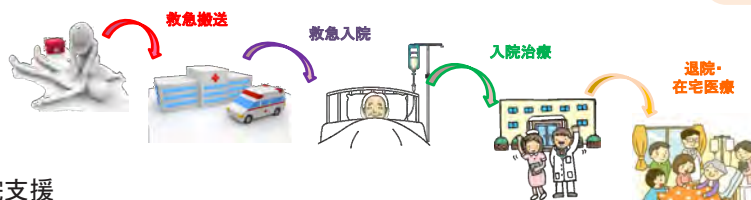
【会 場】ニューウェルシティ出雲 銀河の間

【講 師】重富 雄哉氏(六日市病院 内科)

布野 慶人氏(出雲市消防本部 救急救命士)

日高美佐恵氏(島根大学医学部地域医療支援学講座)他

臨床でご活躍の先生方に症例をご提示いただき、自分ならどうするかを考えるワークショップです。様々な職種・年齢層で多角的な視点から考えていきましょう！



【内容】

1) 退院支援

- ・症例検討
- ・医師、看護師、訪問看護、ヘルパー、ケアマネ、リハビリ、患者、患者家族等としてロールプレイ
- ・ミニレクチャー

2) 救急と医療の連携

- ・症例検討
- ・救急隊員から見た救急医療
- ・ミニレクチャー

3) 症例を通じて感じた現状の課題や自分自身の課題に関してラベルワーク

参加をご希望の方は、5月13日(水)までに地域医療支援学講座まで申し込みください。

【お問い合わせ・申し込み先】 島根大学医学部 地域医療支援学講座 TEL:0853-20-2558 e-mail:career@med.shimane-u.ac.jp

症例



患者 84歳女性

高血圧症、両膝変形性関節症で外来通院中

(入院前ADL)
身の回りのことは可能だが、膝の痛みがあり、長時間の家事が出来ない
外来にはタクシーで夫とも来院
入院前の介護度：要介護1



患者 84歳女性

- (使用していた介護サービス)
- ・デイサービス
- ・入浴サービス(デイサービス時)
- ・移送サービス



患者 84歳女性

(家族)
次男夫婦が同居しており、長女は結婚し遠方(長男は死去)



患者 84歳女性

(自宅の状況)
90歳の夫、次男夫婦と同居
夫は左上肢が不自由で、軽度認知症がある
食事(朝、夕)は長男夫婦が作っているが、内服管理は夫の分も本人が行っていた
風呂は作り置きが患者が作っていた



病状経過

〇月×日自宅で転倒し、左肘を打撲。変形し、内出血していたが左手が動くため病院には受診しなかった。



病状経過

発症から50日経った定期外来(2ヶ月に1度)の際に、外来主治医が左肘関節の変形に気づき精査
また左下肢の腫脹、発赤もあり、精査

左上肢骨遠位端骨折、下肢の軟部組織感染症(蜂窩織炎)を認め入院加療となった

病状経過

骨折
整形外科受診にて、骨折より経過が長いため関節化
手術を行っても治癒する可能性は低いこともあり、手術加療を本人が希望せず

蜂窩織炎
抗生剤投与により改善し、後遺症は認めなかった

退院前のADL

- ・左上肢が、把握は可能だが、ほぼ能力がない(支えること、物を持つことが出来ない)状態となった
- ・ベット周囲の移動は可能
- ・下肢の能力は入院前と変化なし
- ・平行棒内であれば10m程度歩行は可能
- ・介護度が2へ変更



現在の状況

本人は自宅への退院を希望
退院に向け、今後の方針について、病院側(医師、看護師、SW、理学療法士)、地域(ケアマネ)患者側(本人、次男夫婦)でカンファレンスを行うこととなった



登場人物(皆さんが演じる人物)

- ①患者(1名)
- ②患者家族(1名)
- ③病院医師(1名)
- ④病棟看護師(1名)
- ⑤病院理学療法士(1名)
- ⑥医療ソーシャルワーカー(1名)
- ⑦ケアマネジャー(1名)

病院医師

- ・患者に関し診察から治療までの過程で中心的に担当する医師

病棟看護師

- ・保健師助産師看護師法で定められた国家資格
- ・療養上の世話、または診察の補助を行う



理学療法士

- ・理学療法士及び作業療法士法で定められた国家資格
- ・けがや病後などで運動機能に障害のある人や障害の発生が予測される人に対して、座る、立つ、歩くなどの動作の回復や維持、および身体機能の悪化予防を目的に、運動療法や温熱・電気等の物理療法を行い、自立した日常生活が送れるよう支援するリハビリテーションの専門職



医療ソーシャルワーカー

- ・病院等の医療機関で働いているソーシャルワーカー
- ・病気や心身障害等によって、患者や家族が直面する、様々な生活上の問題の解決を援助
- ・医療費や生活費などの経済的な問題の解決、入院や退院に伴う問題の解決、在宅療養環境整備、様々な保健・医療・福祉の情報提供、福祉サービスの紹介、人間関係の問題調整など



ケアマネジャー

- ・要介護者または要支援者からの相談に際するとともに、要介護者等が、その心身の状況等に応じ適切なサービスを利用できるように、市、サービス事業者、施設などとの連絡や調整
- ・ケアプランを作成。



ロールプレイの前に

- ・役の方は、資料や事前説明で、おおまかな自分の役職を理解してください。
- ・症例説明をふまえて、他の職種のみなさんとカンファレンスをしてください

ロールプレイ（事前カンファ）

- ・家族の希望や可能なサービスなどを考えて話し合い、今後の方針（退院後の暮らし場所、在宅であればサービスについてなど）を考えてください

院内グループと
院外グループに
分かれてください



方針について
内容は書いて
おいてください



20分



残り
10分



残り
5分



終了



カンファだよ！

全員集合



退院支援カンファレンス



お願い

- ・退院支援カンファレンスの司会はソーシャルワーカーが行ってください

20分



残り
10分



残り
5分



終了



お疲れさまでした



Let's Share
(分かち合い)

- ①グループ内で2分で1人ずつ発表（感想、良かったところなど）
- ②患者役がグループの結果を発表（フロア全体）



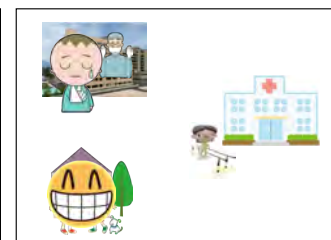
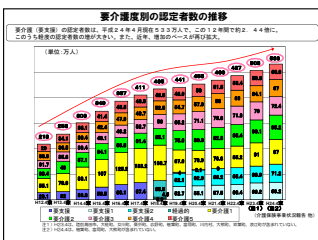
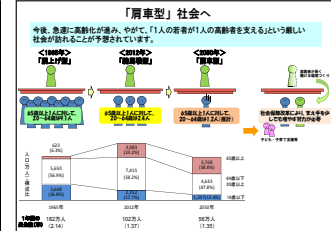
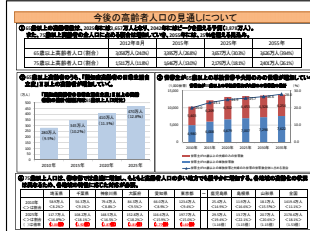
症例カンファレンス

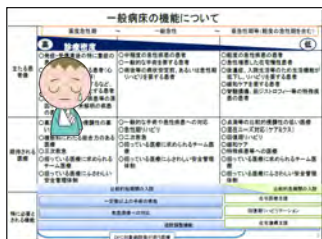
- ・二人であれば老人ホーム入所に同意したが、夫が拒否
- ・再度カンファレンス
- ・本人は在宅を希望したが、息子さんが強く説得
- ・夫のみ在宅で、本人は老人保健施設に入所しリハビリテーションを行っている

症例カンファレンス

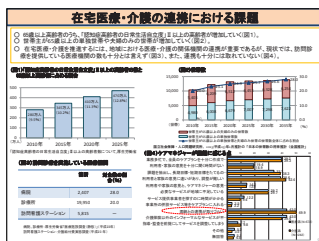
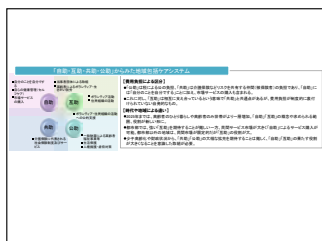
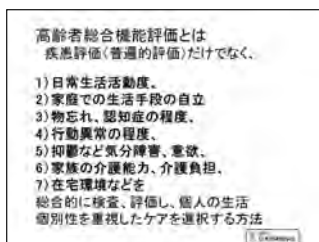
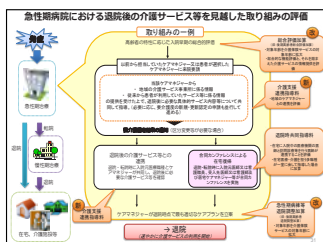
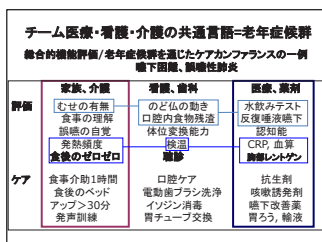
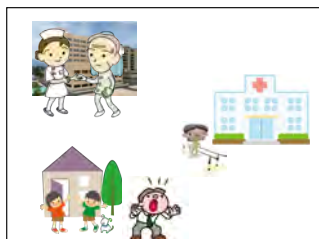
- ・現在のゴールは夫と二人で市内の老人ホーム入所
- ・夫が外来通院時に面会している

退院支援





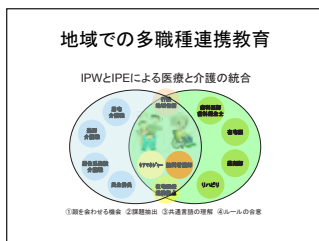
しかし、
高齢者になれば



- これからの医療・介護連携
- ・二次医療圏ごとの医療政策と市区町村ごとの在宅医療・介護連携の推進をリンクさせる
 - ・多職種協働による有効な支援手法、資源、チーム等の実績を共有・蓄積して施策に反映させる
 - ・問題対応型から予防型アプローチへの転換
 - ・住み慣れた地域、在宅生活の継続を重点目標に

だから
・多職種間連携教育(Interprofessional education:以下IPEと略)

IPEの定義
・IPEの定義
・この分野では英国が最も進んでおり、英国専門職連携教育推進センターが次のように定義している。
・IPEとは「2つ以上の専門職が、連携やケアの質を向上するために、お互いからしてお互いについて学ぶこと」



地域医療ワークショップ
出雲市消防本部 警防課
救急救助係 布野 慶人

自己紹介

- ・昭和47年6月8日生まれ(42歳)
- ・平成7年10月1日 :消防吏員を拝命
- ・平成15年12月1日 :救急救命士免許取得
- ・平成22年4月1日 :地域医療支援学講座に就任
- ・平成26年4月1日 :出雲市消防本部に復職
警防課救急救助係



講座配属の受け入れ

通信指令課の見学・救急体験



講座配属の受け入れ

特別救助隊との合同訓練？



今日のお話

1. 症例提示
2. グループワーク
3. ミニレクチャー

症例提示

※症例はノンフィクションです

救急出場指令！

消防通信指令課:

「救急出場指令 救命出場」
「出雲市〇〇町〇〇番地 福祉施設〇〇の里」
「救急1号車出場！」

消防通信指令課:追加情報

「78歳男性が、心肺停止の疑い」

救急隊到着時の状況

施設職員から連絡を受けた

主治医師が駆けつけ
心肺蘇生法を実施中であつた。



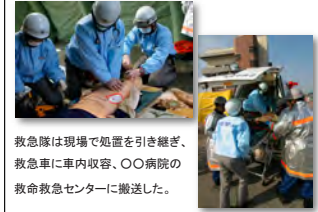
救急隊の活動

医師:

「現在、心肺停止状態です」
「患者は78歳男性、現病歴に心疾患あり」
「〇〇病院救命センターに搬送してください」

救急隊:

「了解しました」
「では処置を救急隊が引き継ぎます」



救急隊は現場で処置を引き継ぎ、
救急車に車内収容、〇〇病院の
救命救急センターに搬送した。

病院到着時の状況1



病院到着時の状況2

救急隊:

「CPA状態が続いています」
「よろしくお願いします」

ERスタッフ:

「はっ、はいわかりました……」

病院到着時の状況2

救急隊:

「あれっ？……CPAなのになぜ
ERスタッフは何もしないんだろう……」

その後……

・家族はERスタッフの対応を不振に
思い……。

・家族とERスタッフとの間でトラブル
が発生した……。

グループワーク

「なぜこのようなこのような**トラブル**が
発生してしまうのだろうか？」

「本救急事案の**課題・問題点**は
どのようなことがあるのか？」

「課題を**解決させる**ためには
どのようなことが必要なのか？」

活動要点

- ・CPA患者で福祉施設に救急出動
- ・到着時、主治医が心肺蘇生を実施中で〇〇病院救命救急センターに搬送依頼
- ・救急隊は処置を引き継ぎ、病院搬送
- ・病院到着し、申し送りを行い患者を引き継ぐが、ERスタッフは患者に処置を行わなかった
- ・不審に思った家族とERスタッフとトラブルが発生

ルール

- ・トラブルに至った詳しい状況は各グループで自由に想像してください。
- ・課題・問題点を抽出してください。
- ・課題・問題点に対しての解決策を話し合ってください。

救急隊と病院のすれ違い

救急隊と病院間のすれ違い

- ・処置に関するすれ違い
- ・病院選定に関するすれ違い
- ・情報提供に関するすれ違い

処置に関するすれ違い

- ・外傷患者の処置
- ・内因性の処置
- ・救命士の特定行為

病院選定に関するすれ違い

救急隊:

「この患者はかかりつけなので搬送しました！」

ERスタッフ:

「なんで軽症患者を運んで来るの？」

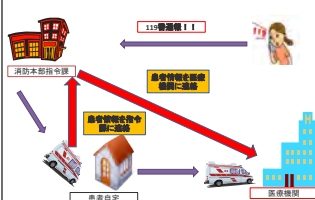
ERスタッフ:

「かかりつけといっても1回しか受診してないのに！」

救急隊:

「そんなこと言われても主治医の先生指示を受けているのに……」

情報共有に関するすれ違い



円滑な連携を行なうための取り組み

On the job training

- ・Doctor car事業
- ・救急隊の病院実習
- ・医学生等の消防実習

Off the job training

- ・BLS
- ・ACLS
- ・PALS
- ・JPTEC
- ・多数傷病者訓練
- ・消防機関・医療機関のミーティング



まとめ

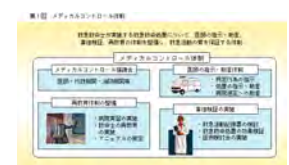
- ・地域の救急医療をさらに充実させるためには、まずお互いの職種の背景を理解し尊重することが重要である。
- ・地域のチーム医療に貢献するためには……。
- 1. 観察力:他の医療従事者と良好な関係を築き、様々な変化を捉える能力。
- 2. 柔軟性:自身の職種の考え方に固執せず、他の意見にも共感する能力。
- 3. 情報力:他の医療従事者と対等に意見交換できるよう、常に最新の情報を入手できる能力。

救急救命士について

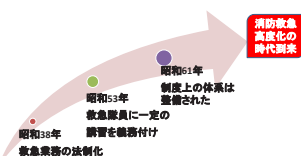
消防職員の身分

各市町村の公的機関
に属する地方公務員
の中の「消防吏員」

救命士・救急隊の教育



消防救急の歴史 The History of Fire and Ambulance Service



昭和61年ある事故が・・・

昭和61年1月24日
「ハレーボール日本リーグ」
・日立vsダイエー
の試合中に、・・・

「全米代表のフローラ・ハイマン選手が試合中突然倒れ心停止になり病院に搬送されたが間もなく死亡・・・」



この映像が全米で放映されると・・・

「なぜ日本人は・・・」

「応急処置や応急手当
をしないのか・・・？」

医師法17条の壁
医師でなければ、医業をなしてはならない
医師でなくては医行為をしてはならない

平成元年 フジテレビ企画「救急医療にメス」



「医療のない救急車」
について問題提起しつづけた。
黒岩氏の目的は「**医療行為のできる救急隊員の実現**」であり、社会問題まで発展した。

救急救命士誕生

- ・平成3年4月23日 救急救命士法制定
- ・対象 **心肺機能停止患者**
- ・MC 医師の具体的指示
- ・特定3項目
 - 半自動除細動器による除細動
 - 器具(LMA、食道閉鎖式エアウェイ)による気道確保
 - 静脈路確保



救急救命士の処置拡大

- 平成 8年 出雲地区救急連絡協議会発足
メディカルコントロール体制を整備
- 平成14年 「救急救命士の業務ありかた検討会報告」
メディカルコントロール体制の整備が必要
- 平成15年 除細動が包括的指示に
- 平成16年 気管挿管が認められる
- 平成18年 アドレナリン投与が認められる
- 平成23年 ビデオ喉頭鏡による気管挿管

救急救命士の新たな処置拡大

- 平成26年4月1日 **心肺停止前**の患者への処置
- 血糖測定
 - ・対象 意識障害(JCS-10目覚)
 - ・MC 医師による具体的な指示は必要なし
 - 低血糖発作症例へのブドウ糖注射液の投与
 - ・対象 血糖値30mg/dL未満、15歳以上
 - ・MC 医師による具体的な指示
 - 心肺機能停止前の静脈路確保と輸液
 - ・対象 意識するショックである可能性が高いクラッシュ感発症を認う、または、異なる可能性心原性ショックが強く疑う場合は対象外
 - ・MC 医師による具体的な指示



新たな処置拡大に伴う出雲MCの今後の活動

- ・再教育(県MC) 24時間集合教育
- ・メディカルコントロール体制の整備が条件
 - 常時継続して医師の具体的指示が受けられる体制
 - プロトコルの作成
 - 再教育体制の整備
 - 事後検証体制の整備
- ・処置拡大について、市民、医療関係機関に周知
- ・運用開始

救急救務に関わる職員の教育

- ・救急救命士の資格を有する職員の教育
- ・救急隊員の資格を有する職員の教育
 - ✓ 教育プログラム(所屬教育)を作成し来年度から実施予定
- ・選任指令員の救急に係る教育
- ・指導救命士認定制度
 - ✓ 地域MC 研修会計画や指導、事後検証、病院実習計画
 - ✓ 消防本部 職員指導育成、事後検証、再教育、MCとの調整
 - ✓ 全国 研修会への参加、教材作成の参画など

主催：総合診療医育成ネットワーク 島根大学医学部地域医療支援学講座
協力：出雲家庭医療学センター 島根大学医学部総合医療学講座

第10回総合診療ワークショップ

～BPSで考える総合診療医の目線～

日時：平成27年10月31日（土） 14時～17時

- ①総合診療医の仕事について紹介
- ②ワークショップ（症例のグループディスカッション）
- ③meet the experts（島根県内外の総合診療医の話と質疑応答）

18:30～ 意見交換会

場所：島根大学医学部看護学科棟3階 第1実習室



講師

高橋 賢史 先生	出雲家庭医療学センター	出雲市民病院
藤原 悠子 先生	出雲家庭医療学センター	大曲診療所
藤原 和成 先生	出雲家庭医療学センター	出雲市民病院
松本 翔子 先生	出雲家庭医療学センター	大曲診療所
松本 賢治 先生	出雲家庭医療学センター	出雲市民病院
能美 雅之 先生	島根大学総合医療学講座	大田市立病院
上村 祐介 先生	島根県立中央病院	総合診療科
久野 遙加 先生	筑波大学 総合診療グループ	
来住 知美 先生	大阪市立総合医療センター	感染症内科
木島 庸貴 先生	島根大学医学部総合医療学講座	

BPS：生物心理社会モデル
(Biopsychosocial Model)

お申込み・お問い合わせ：島根大学医学部地域医療支援学講座 担当 日高、芦田
(TEL:0853-2558 ・ Mail:career@med.shimane-u.ac.jp)

※平成23年より開催している地域医療ワークショップ・家庭医療ワークショップを今回より総合診療ワークショップとして統合しました。

※熱い思いを講演いただきました。

対象者：指導医・研修医・医療機関関係者・行政関係者等

平成27年度 ブラッシュアップ講習会in浜田

講師：沖縄県立中部病院 総合内科
尾原 晴雄氏

日時：平成27年7月11日(土)14:00～17:30

場所：独立行政法人 国立病院機構 浜田医療センター2F総合研修センター
※TV会議システムで島根大学等に接続予定です。

【Part 1】(1)カンファレンス (2)ミニレクチャー
初期研修医から症例を提示して症例検討会を行います。

【Part 2】講演・意見交換会
「沖縄県立中部病院の卒後教育(総合内科)の取り組みについて」

【主催・お申込】総合医・家庭医育成ネットワーク 島根大学医学部地域医療支援学講座
E-mail: career@med.shimane-u.ac.jp Tel: 0853-20-2558

【共催】独立行政法人国立病院機構浜田医療センター・浜田市・一般社団法人しまね地域医療支援センター・島根県・島根大学医学部

申込締切：6/26(金) ※院内に託児を設けますので、ご希望の方は6/23(火)までにお申込下さい。

沖縄県立中部病院における卒後研修 — General mindをいかに育てるか —

沖縄県立中部病院 総合内科
尾原 晴雄
haruo.obara@gmail.com

- ・島根県松江市西川津町出身
- ・松江市立第二中学校
- ・松江北高校理数科
- ・鳥取大学医学部医学科
(テニス部)



全職員が教える

- ・診療の主役は、研修医
- ・病院全体が、人の入れ替わり(ローテーション)、学生の出入りに慣れている
- ・Co-medicalもサポート



沖縄の医療における
中部病院の役割



簡単に自己紹介



Clinician educatorとしての私

- ・総合内科指導医として研修医とともに診療
(外来、救急、病棟コンサルト)
- ・医学教育専門家としての役割
 - ▶ 臨床研修委員会 副委員長
 - ▶ カリキュラム、ローテーション調整
 - ▶ チーフレジデントとともに、研修医の抱える様々な問題に対応
- ・沖縄県全体の卒後研修、指導医養成
- ・社会人大学院生として医学教育研究



中部病院の研修の歴史



1964年 Dr. Yamauchi 来沖
沖縄住民の劣悪な医療環境を
強烈に批判し、医療育成の
ために、以下を提言した。
●臨床研修病院
●医学図書館
●医学部の設立

研修医教育



中部病院臨床研修1期生(1967年)

本日の内容

- ・沖縄県立中部病院の卒後研修の概要と特色
- ・総合内科における外来研修について
- ・総合内科(総合診療科)の生かし方

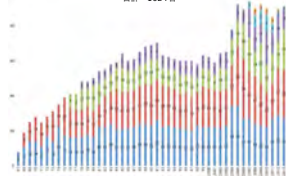
沖縄県立中部病院

- ・病床数 550床
- ・沖縄県うるま市(那覇市から車で約1時間)
- ・1967年：独自の臨床研修制度開始
- ・指導医 約110名
- ・研修医 初期57名、後期40名



これまでの採用研修医数

合計 1024名



初期研修医(29名)の募集



屋根瓦維持のため

- 13

一年次	英語 1年次	英語 2年次	英語 3年次	英語 4年次	英語 5年次	英語 6年次
二年次	英語 1年次	英語 2年次	英語 3年次	英語 4年次	英語 5年次	英語 6年次

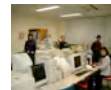
-



- 1年次研修医：29名
- 2年次研修医：28名
- 3年次～5年次研修医：40名
- チーフレジデントの存在
- 勉強会の自主開催、研修委員会への提言

→自分の研修は、自分で作る

ハワイ大学
中絶の権利を保護する会



- 研修医を支援するハワイ大学事務所
- ディレクター（医師）1名、事務長1名、専任事務4名
- 研修委員会では、各科担当医師とチーフレジデントが毎週1hの会議で情報共有
- 研修生活全般を支援している（なお、厚生局とのやり取り、給与等は、病院総務課職員数名が担当している）

- まず "General"
- 元祖 "屋根瓦方式"
- 病院全体で、ERを支える
- 離島研修 (中核病院、診療所)

[illegible]

16

06:00～ 各病棟での採血

07:30～ 各科カンファレンス

08:30～ 回診、病棟業務（外科系なら手術）

19:00～ 当直への引継ぎ。その後自由。

①17:00～01:30頃 救急準夜勤：月4回ほど
②各科の病棟当直：月4～6回ほど

[illegible]

週數	1	4	6	8	10	12	14	16	18	20	22	24	26	28	30	32	34	36	38	40	42	44	46	48	50	52
1年次	小兒科		外科										休麻 眠急		產婦人科		循環呼吸									
2年次	呼吸器		神經內科		消化器				腎臟內科		循環器		精神救急		麻酔		地域		腎							

- 臓器別ロテーションであるが、週1回の総合内科外来、当直（ER、病棟）では、常に内科全般に暴露され続ける
- 短期間に、集中的に症例を経験する事で、一通りの各診療科の疾患の初期対応、病棟管理ができるようになる

- 専門領域にとらわれずに**外科系のすべての疾患**に対してその診断・治療に精通することを目標としている。
- 整形外科、脳外科、泌尿器科、形成外科などのプライマリケアーに精通する事
- 臓器別に研修を積むのではなく、小児外科から内分泌・呼吸器・消化器・循環器外科・救急外科・外傷外科などの**多種多様な患者を同時に治療**している。

74

- カリスマベテラン指導医よりも、身近な先輩研修医から多くを学ぶ
- ➡ 研修医も“教える”ことへの意識が大切



Bing-You, RG, et al, Medical Teacher, 1992

- 指導医の約8割が、当院研修修了生
- 同じ釜の飯を食ったものの



- 主治医ではなく、チーム制
- 各チームは、指導医、後期研修医、2年次研修医、1年次研修医、学生で構成される
- 2年次研修医が、入院患者の担当医となり、1年次はそのサポート
- 当番も屋根瓦方式（約30名が病院内のみ）



38

- 研修医は、そのレベルに応じた診療・教育の責任を担う（屋根瓦方式）

- 教え学び合う文化
- On-the-job Training中心



- チームの一員として参加
- 1年目とともに行動
- 入院時要約、プレゼンテーション
- 病院を気に入ってもらえるチャンス



33

2

- 研修の全期間を通じて関わる
- 1年目：ERローテーション期間以外にも、月45回の準夜勤当番
- 2年目：各科当直レジデントとして、ER1年目からのコンサルトを受ける
- 後期研修医は、そのサポート
- 救急専門医、各科当直が、24時間バックアップ



22

2009年4月から12月

	読者数	発行部数
読者数A	1,213	276
A	1,028	156
C	1,131	247
D	1,043	274
E	728	146
F	1,060	216
G	780	137
H	1,293	243
I	606	93
J	606	100
K	705	145
L	479	71
M	267	175
N	918	178
O	1,103	192
P	810	132
Q	1,172	211
R	657	196
S	176	61
T	1,013	213
合計	10,515	1,766

94

症例

- 72歳 女性
- 主訴：左背部痛
- 現病歴：来院前日の夕方、TVを見ているときに徐々に左背部痛を自覚。痛みは刺さるような感じで、部位の移動はないが、だんだん強くなった。夜は痛みのためあまり眠れず、本日前になっても症状が変わらないため、EC受診。こんな痛みは初めて。外傷歴はつきりしない。嘔気、嘔吐、冷や汗、胸痛、呼吸苦なし。増悪要因は、特になし。受診時痛みは、4.5/10程度。

19

症例

- 既往歴：高血圧にて近医通院中
- 内服薬：降圧薬（詳細不明）
- 生活歴：never smoker、EtOH なし
- 身体所見：BP 160/90、HR 80、RR 18、BT 36.4℃。意識清明、全身状態は良好。頭静脈怒張なし。心音は整、雑音なし。呼吸音に左右差、w/cなし。腹部に圧痛無し。痛みのある左背部に、明らかな圧痛なし。CVA knock painなし。

20

症例

s) 痛みは、まだ残っています。左背部から左前胸部までじりじり痛みます。

o)



21

診断は？

症例

- ECG：NSR、NAD、ST-T changeなし
- 胸部Xp：縦隔拡大なし、肺うっ血なし
- 採血、U/A：異常なし

22

症例

- A/P：左背部痛の原因はつきりせず、2年次レジデントにコンサルトへ。大動脈解離の除外目的に、胸部骨盤造影CT施行されるも、異常所見なし。カロナール内服で症状の改善あり、筋骨格系の痛みのアセスメントで、5日後の内科外来フォローで帰宅となった。

23

帯状疱疹

- VZVの再活性化
- 「たんがさ」
- 痛みが先行し、rashが数日～数週遅れて出現
 - 疑ったら、ECの時点でrash出たら来院と説明しておく
- 治療：バラシクロビル（バルトレックス）、カロナール or NSAIDs → 無効ならリリカ考慮

27

救急から内科外来でフォローアップとなる患者のパターン

- 急性疾患の治療経過のフォローアップ（例：市中肺炎、肺炎など）
- 慢性疾患急性増悪のフォローアップと継続加療（例：喘息、片頭痛など）
- 外来で初期アセスメントを行い、全身状態は落ち着き、外来での観察目的（例：初期の全身性じんましんなど）
- 外来でアセスメントが立たないが、全身状態は良く帰宅可能な症例（例：発熱、動悸、medically unexplained symptomsなど）
- 主訴と別に、外来で発見された異常の観察加療（例：URと診断されたが、真性紅斑を認めないなど）
- 外来で採血した結果で異常のフォローアップ（例：Scrap throat、尿潜血陽性など）
- 外来で採血した結果で異常のフォローアップ（例：Scrap throat、尿潜血陽性など）
- 患者の希望がある場合

28

＜外来担当医師机下＞

いつも大変お世話になります。
高血圧にて近医通院中の72歳女性ですが、昨日からの左背部痛にて来院しました。
最終的に造影CTまで行いましたが、明らかな原因はつきりせず、カロナール内服で軽快傾向であったため、確定となりました。
症状フォローアップのほどよろしくお願い致します。

25

症例

- 症例について、追加の質問は？
- 外来でのフォローアップのポイントは？

26

外来研修の指導は難しい

- 何が来るかわからない
- 時間が限られる
- 患者と研修医の両方を診る必要がある



29

外来研修の障害

- 指導医の確保
- 外来ブースの問題
- 待ち時間の問題
- 外来研修の時間確保（病棟研修とのバランス）

30

外来研修成功のコツ

- 内科各専門科、救急との協力体制
 - 診療面で、お互いに補い合う関係を
- 病棟研修先の理解を得ること
 - 継続して外来研修ができる環境作りを
- 研修医各自に、自分の外来を意識させること

31

本日の内容

- 沖縄県立中部病院の卒後研修の概要と特色
- 総合内科における外来研修について
- 総合内科（総合診療科）の生かし方

32

何でも屋を続けるのは大変

お互いを大事に

- 病院内でのニーズは？
- 総合内科（総合診療科）としてやりたいこと
- 管理者、他診療科からの理解
- 人を増やす（仕事が増えすぎないように、）

37

小規模展開のアイデア

- 外来／救急診療：これだけでも結構なボリュームかつ、病院にとってもメリットあり。研修医教育にもプラスになる。
- 複数名いないと、病棟かけもちは大変
- 感染管理、医療安全などの委員会活動だけでも十分助かる

38

総合診療専門医って？

- “総合的に診る”ことが専門
- 「扱う問題の広さと同様性」が特徴
- 「家庭医」と「病院総合医（hospitalist）」



33

病院総合医の守備範囲

かなり広い

- 外来診療：新患、予約外来
- 救急診療：初診から、入院受け持ち
- 病棟診療：内科全般、内科臓器別診療科不在の領域、他科からの内科コンサルト（整形、脳外、...）
- 組織横断的役割：感染管理、NST、医療安全、臨床研修、...

34

総合内科（総合診療科）がもたらす効果

- 臓器別専門医が強みを生かせる職場に
- 外来、救急、病棟の円滑な運営
- 初期研修医教育にとって、内科の基礎トレーニングとして、極めて重要な存在
- お金は稼げないかもしれませんが、priceless

39

総合内科を基盤とした研修病院作り

- 急性期医療を担う中核病院にとっては、初期研修医、後期研修医の活躍が不可欠
- そのホームグラウンドとして、救急、総合内科というフィールドは有効
 - 例：水戸協同病院、福知山市市民病院、...
- 地方だから、魅力を出せる

40

総合内科（総合診療科）の形態

- 病院の規模、特色によって様々
- 大雑把に言うくと、
 - 500床以上：専門科としてのGIM（例：不明熱診療、Dr.G的外来診療や臨床以外の業務）
 - 300床前後：外来、救急、病棟の全てにおいて、commonな幅広い内科疾患を扱う
 - 100床以下：全科的対応も求められる

35

病院総合医が臨床的に最も輝ける場所



小、中規模病院（300床前後まで）

36

総合診療への追い風

- 新しい専門医「総合診療専門医」
- 地域枠卒業生のキャリアとしても
- 引く手あまた、間違いなし！

41

最後に

病院、地域の特性を生かした総合診療は、研修医、医学生にとっても魅力ある学びの場



島根において、これまで以上に盛り上がりつつあることを願っております

42

主対象者:後期研修医
初期研修医、指導医、学生等の皆様も
ご参加お待ちしております！

平成27年度 ブラッシュアップ講習会 in出雲

講師:勝川ファミリークリニック 医師 北村和也氏

愛知県春日市にて、患者さんがいつでも何でも相談できる事、適切な診々連携・病診連携が構築できる事、予防・診療・治療・リハビリテーションまで気を配ること等を理念として総合診療に携わっておられる先生です。

日時:平成27年11月14日(土)14:00~17:30

場所:島根大学医学部 講義棟1F国際交流ラウンジ

【Part1】ワークショップ『エビデンスに基づいた予防医療』

現場における健診の疑問点、問題点の共有

外来での個々の患者に対するアプローチについて症例提示、ディスカッション

【Part2】意見交換会

後期研修医・指導医等に分かれて交流

参加申込み:10/31(金)までに下記までご連絡下さい。



【主催・お申込】総合診療医育成ネットワーク 島根大学医学部地域医療支援学講座

E-mail:career@med.shimane-u.ac.jp

Tel:0853-20-2558

【共催】一般社団法人しまね地域医療支援センター・島根県・島根大学医学部

※本講習会は文部科学省「未来医療研究人材養成拠点形成事業」リサーチマインドを持った総合診療医の養成の一環として開催致します。

えんネットの協力により学内に託児を設けます。ご希望の方は10/31(金)までにお申込下さい。

平成27年度 ブラッシュアップ講習会 in 出雲

根拠に基づいた予防医療を実践する

平成27年11月14日(土)
島根大学医学部講義棟1F国際交流ラウンジ
勝川ファミリークリニック 北村和也

目標

- ・現在の健診(検診)の問題点について共有し、理解する
- ・根拠に基づいた予防医療の概念を理解する
- ・明日からできる根拠に基づいた予防医療の実践を一つ挙げる事ができる

健診は予後を改善しない



なぜ根拠にこだわるのか?

- ・FIRST, DO NO HARM
- ・利益>害の原則



予防医療こそ根拠にこだわる必要あり

- ・症状がある患者に「必ずよくなる」と保証することはできない
- ・予防医療の対象者は原則として無症状(=健康)
- ・予防医療を提供する時「利益>害を上回る」と断然に約束したことになる

利益>害という根拠の存在が、症状のある患者より重要！！

Sackett CMAJ 2002;167(4):363-4

現在の我が国における 予防医療の問題点

- ・内容の多くが根拠に基づいていない
- ・医療と切り離され、多くは保険診療と認められていない
- ・継続性が保障されていない

健診に継続性が保証されていない

- ・健診センターが流れ作業で行っている
- ・担当者はその愚問(アルバイト?)
- ・結果はコンピュータが自動判定
- ・結果は後日郵送がほとんど
- ・フォローアップは?かかりつけ医への連絡は?

かかりつけ患者の健診結果のフォローを！！

USPSTF(米国予防医学専門委員会)



ePSS(Electronic Preventive Services Selector)



根拠に基づいた予防医療

- ・日本PC連合学会・予防医療教育WGの文献レビュー



Take Home Message

- ・予防医療は家庭医の重要な役割の一つである
- ・我が国の健診は多くの問題点を抱えている
- ・健診内容の多くが根拠に基づいていない
- ・継続性も重要
- ・「文献レビュー」の試みがある(近日常に日本PC連合学会HPで閲覧可能に)



終わりに

地域医療支援学講座開設から6年が経過しました。当講座が開設された時に1年生だった学生が4月から研修医として巣立とうとしており、地域卒6年生だった卒業生が地域医療セミナー・ランチョンセミナーの講師として立派に在校生に話をしてくれるようになりました。また、机と椅子、ロッカー、そして電話が一つあるだけだった部屋も、今や6年間で作成した書類や報告書、収集した資料の置き場に困る程になり、感慨深い思いであります。そしてその間に、島根県内及び全国の病院・行政・住民のあらゆる立場の数えきれない程多くの方々と意見交換し、様々なことをご教示いただきました。幾度となく振り返っても、皆様方への感謝の気持ちでいっぱいです。

おかげをもちまして、当講座は引き続き平成28年度から平成33年度まで、島根県の寄附講座としての設置の継続が決まりました。そして今後も多くの地域卒学生が卒業していきます。学生時代の教育を充実させ、卒業した医師が満足感を持って地域医療に関わり、県内における安全な医療の提供と健康で豊かな地域社会づくりに寄与できるよう、当講座として邁進していきたいと存じています。

今後も引き続きご指導ご鞭撻いただきますよう何卒よろしくお願い申し上げます。

平成28年3月

島根大学医学部地域医療支援学講座一同

島根大学医学部地域医療支援学講座
平成27年度報告書

発 行 日 ■ 平成28年 3 月

発 行 者 ■ 島根大学医学部地域医療支援学講座

教授 谷口 栄作

〒693-8501 島根県出雲市塩冶町89-1

電話(ダイヤルイン) 0853-20-2558 / FAX 0853-20-2563

E-mail : career@med.shimane-u.ac.jp

URL : <http://www.communityshimane.jp/>

印刷・製本 ■ 今井印刷株式会社

〒683-0103 鳥取県米子市富益町8
